

328
344

會計簿據
全



始



森田熊太郎著



會計と帳簿

大正
5. 7. 6
内交

東京

嵩山房藏版

自序

此書は商店會計の大要を説きて會計法と簿記法との共に缺くべからざるを述べ次に如何に會計を計理すべきや其順序と方法を講じ更に進んで小賣卸賣問屋等に適切なる會計組織と帳簿組立の實例を示す。而て其記述は常に我國在來の方法と對照してその長短を認めしめて之を實地に運用する參考に供す。此書僅に二百餘頁の小冊子なりと雖もまた之に依りて商店會計を經理する大綱を知り此種編著の缺を補ふ

自序

を得ば著者の本懐なり。茲に聊か本書内容の概要を
記るして序文とす。

大正五年五月

著者誌す

例言

- 一 此書は主として商家店員に商業會計法の概要と商店簿記の計理方法を説きたるものなり。
- 一 此書は参考の爲め附録として所謂帳簿なし簿記を利用せる帳簿組織を簡単に記述して卷末に附せり。
- 一 此書掲ぐる處の帳簿組織は直に實際に適用し得る様其組立其形式に於ても特に留意せり。
- 一 此書に掲ぐる帳簿の形式は可成的異りたるものを示して参考の材料となさしむることを力む。故に彼是参照以て相互の得失を知るべし。
- 一 此書を繕く者にて全く簿記を知らざるものは森田會計調査所編の「新式簿記講義」を通讀して後此書を研究するを可とす。
- 一 此書を讀み一層深き研究をなさんとする者は此書と同著者の「商工實踐會計法」を見らるべし。

例言

例言

一 此書は手形小切手船貨證券其他商業取引に係る事項にて普通の商業書にあ
るものは茲に説明せずこれらは他書に就て研究せらるべし。

大正五年五月増補發行に際して

著者誌す

會計と帳簿目次

緒言

第一編 總說

第一章 會計取引

| | |
|-------------|----|
| 第一節 財 産 | 三 |
| 第二節 財産ノ増減變化 | 四 |
| 第三節 取引ノ要素 | 七 |
| 第四節 取引ノ結構 | 一〇 |
| 第五節 取引ノ種別 | 一三 |

第二章 會計法

| | |
|-----------|----|
| 第六節 會計ノ組織 | 一六 |
|-----------|----|

目次

第七節 會計事務 二〇

第八節 會計ノ處理 二二

第九節 會計ノ計理 二六

第十節 會計検査 二八

第三章 簿記法

第十一節 商業帳簿 二九

第十二節 仕譯ノ法式 三一

第十三節 類別ノ法式 三六

第十四節 試算ノ法式 三八

第十五節 結算ノ法式 三九

第二編 記帳及ビ結算

第四章 主要記帳

第十六節 日記帳 四二

第十七節 元帳 五五

第十八節 記帳試算 七七

第十九節 財産調査 八二

第二十節 繰越及ビ締切結算 九二

第二十一節 會計報告 九七

第五章 補助記帳

第二十二節 補助帳簿ノ必要 一〇二

第二十三節 補助帳簿ノ様式 一〇四

第二十四節 「カード」及ビ「タビュラー」システム 一〇八

第二十五節 主要帳簿ト補助帳簿ノ組立 一一一

第六章 勘定科目

第二十六節 勘定科目ノ分類 一四四

第二十七節 金 錢 一四八

第二十八節 土地家屋器具類 一四九

第廿九節 公債證書株券類 一五二

第三十節 商品類 一五三

第卅一節 損益ノ諸勘定 一六三

第卅二節 普通ノ貸借 一六八

第卅三節 手形上ノ貸借 一七〇

第卅四節 交互計算掛貸借類 一七四

第卅五節 未決算假受渡 一七八

第卅六節 資本金 一七九

第卅七節 損益金 一八〇

第三編 帳簿組織

第七章 帳簿編成

第卅八節 勘定ノ形式 一八一

第卅九節 帳簿編成 一八七

第四十節 帳簿取扱心得 一八八

第八章 小賣營業

第四十一節 小賣業 一九〇

第四十二節 月掛販賣 一九九

第九章 卸賣營業

第四十三節 卸賣業 二〇八

第四十四節 卸賣及ビ小賣 二二二

第十章 問屋營業

第四十五節 問屋營業 二二九

附 録

實用簡易帳簿の仕組 一

會計と帳簿目次終

會計と帳簿

森田會計調査所主 森田熊太郎 述

緒言

今商店に於ける帳簿の記入法を知らんと欲せば其店の帳簿仕組を知りまた其帳簿仕組を明かにせんとするには其店の帳場仕組を知らざるべからず。たとへ如何に小仕掛の帳場にも帳場には帳場の仕組ありこの仕組を解せずして帳合せんとするは恰も器械の性質構造を審かにせずして之を取扱ふに同じ。帳場の組立を知らずして帳合を審にせんとす豈に得べけんや。

帳場の仕組とは會計事務は如何に取扱ひまた如何なる方針によりて簿記計算をなすや之れが取扱處理の順序方法を謂ふ。帳簿の仕組とは帳場の仕組に基き一組の帳簿を編成して會計取引の顛末を記入する順序方法を謂ふ。營業の會計

積送品となしたる如く別に権利の目的物は變更せざるも其状態に於て變化せるものあり之を財産状態の變化と云ふ。
 財産増減の源因 財産の變化は多く人の意志によると雖も財産の増減は人の意志によるありまた偶然の關係より來るあり。人の意志より來るものは勞務の關係より生ずるものにて此内には第一人間の用役、第二財産の用役、第三過去勞務の結果の三者あり。偶然の關係より來るものは前に述べたる永久の損益に多く其重なるものは水火盜難破毀損傷等より來る損害等なり
 勞務ノ關係ヨリ生ズル源因 人間の用役とは人が已れの勞務を他人に渡しまた他人より勞務を受けて之れが報酬を受拂する場合を云ふ。財産の用役とは人が作りたる財産其人の代りに働くものにて其用役に二途あり。第一は財産の使用として金錢物品を貸渡して其利金を收むるが如きを云ひ第二は財産の消費として事務用に筆紙を費やし炭油を消耗するが如きを云ふ。過去勞務の結果とは我が永年の營業によりて得たる花主の株の類を云ふこれは他人に讓渡する場合に於て明かに財産増減の源因たるを認むべし。

偶然ノ關係ヨリ生ズル源因 此源因は前に其大要を述べたる如く水火震災によりて我が財産を失ひまた好意により財産を讓受け若くは讓渡しまた不注意により我が財産を破毀損傷せしめたるが如きものなり。また天變地異の爲め或る商品の相庭頓かに騰貴し若くは下落して我が財産高に増減を來たさしむるが如き場合もありとす。
 財産増減ノ源因ハ合併シテ起ル 財産増減の源因は之を勞務と偶然の二大別に分つと雖も之れらの源因は單獨に存在すること稀にして大抵は多くの源因合併し混同して財産を増減せしむるものなり。例へば貸金の利金と云へば財産の用役にして財産の使用より來る如く解すれど其實際を見れば勿論財産の使用より來る報酬大部分を占むと雖も尙ほ此利金の内には貸金辨償に對し危険の報酬を含み尙ほ其當時偶然の關係によりて生じたる利子歩合の高低より來る金額をも含むことありとす。

第三節 取引ノ要素

會計取引 商家に於て一般に取引と云へば賣買受渡を指すが如しと雖も會計上

取引とは其意味廣く苟くも結果が表價財産の増減變化を引起すものはこれ皆取引なり。取引は受渡にして必ず受くるものと渡すもの、二者より成り此受渡せらるゝものを取引の要素と云ふ。而て此要素は何れも金錢にて其價を見積るものなるが故に取引を解してまた價の交換とも云ふなり。

取引ノ要素 取引の要素は之を一々擧ぐる能はずと雖も要するに各種の財産及び財産を増減せしむる原因の二者より成る。財産には人的と物的の區別あるが故に取引の要素はまた之を大別して人と物と事との三者に分つ。事とは即ち財産増減の原因にして財産増減の原因には勞務と偶然の關係の二者を含むことは前已に述べたるが如し。

取引ノ例 今金錢を渡して商品を買入るとせば之れ物を渡して物を受けたる取引にして掛勘定にて商品を賣渡を賣渡すは追て返金すると云ふ約束を受けて物を渡したる取引なり。また賣買の周旋をなして金錢を受ければ之れ周旋と云ふ事を渡して金錢と云ふ物を受けたる取引なり。右は一二の例にすぎすと雖も取引の何者たるは了解し得らるべし。

取引ノ價 取引に於て受渡せらるゝものは必ずこれを當時其國に通用する貨幣にては其價を見積るものなり。衣食住に必要な物品は賣買の相場ありて其價を定むるを得他人との貸借また定まりたる金額あり。各種の勞務は之に對して受拂する金錢物品によりて其價を定め偶然の關係は之れにより得失したる財産によりて其價を見積るを得べし。

價ノ分類 商業の取引には生産の價あり營利の價あり。生産の價とは其要素の生産に係る一切の費用を含みたるものにて營利の價とは營業主の利潤等に充てんとする價なり。此分解と同一取引要素の價にまた流通價格及び相對價格の別あり。

流通價格 流通價格とは一旦受入れたる價格の他に轉換する場合を云ふ。例ば金百圓にて買入れたる商品を金百圓にて賣渡す時は此商品の價金百圓は賣渡によりて他に轉換すべし。また現金百圓を當座預金とせば現金の價金百圓は當座預金に轉換すべし。斯く他の財産に振替へゆく價を指して流通價格とは云ふなり。

賣買手数料を現金にて仕拂ふ此金十五圓也。

合併と財産との取引

商品代金百圓也并に右買入手数料金五圓也計金百五圓也現金にて仕拂ふ。

財産と原因との取引

現金十圓也貸金の利子として受取る。

原因と原因との取引

本日仕拂ふべき利金を請取るべき手数料金十五圓にて差引す。

合併と原因との取引

本日受取るべき地代金五十圓に對し其金三十圓は當方より仕拂ふべき賣買手数料にて差引き殘金二十圓也現金にて受取る。

財産と合併との取引

元價金百五十圓の商品を現金二百圓也にて賣渡す。

原因と合併との取引

本日仕拂ふべき利金百五十圓の内金五十圓は受取るべき本月分倉庫料と差引

き殘金百圓は現金にて仕拂ふ

合併と合併との取引

商品代金五百圓也買入手数料金十圓也計金五百十圓を請取るべき處當方より仕拂ふべき利金十五圓也倉庫料金三十五圓也あり依て此計金五十圓を差引き殘金四百六十圓也現金にて受取る。

第五節 取引の種別

變化増減ノ取引 取引は其結果が財産の變化なると増減なることにより財産變化の取引財産増減の取引の如く分たる。財産の變化には形態變化あり狀態變化あり故に財産變化の取引にまた此二小別あり。財産の増減には一時の増減と永久の増減あり故に財産増減の取引にまた有償的増減の取引無償的増減の取引の二小別あり。

單成複成ノ取引 取引は其組織により單成取引複成取引の如く區別す。單成取引とは一箇の取引を變化と増減の二者に分類し各自を獨立せしめて單に一箇の取引とするものを云ふ。而して二箇以上の性質を合併して恰も一箇の取引とす

るもの之を複成取引と云ふ。例へば金五百圓にて買入れたる商品を金六百圓にて賣捌くとせん。之れを買入れたる當時は現金と商品との變化にして即ち單成取引なり。之を賣渡したる時は分解して内金五百圓は財産變化の取引（商品を現金に替ゆ）とし殘金百圓は之を財産増減の取引とす。これまた取引と分解して單成取引となしたるものなり。然るに之を賣渡したる時綜合して單に金と商品との取引とし追て結算に至りて分解することあり此綜合したる儘取引を結構するを複成取引と云ふ。

現・實・假・定・ノ・取・引 取引は其發生の實現と否とにより現實取引と假定取引とに分たる。現實取引とは商品を賣買したるが如く利金運賃を受拂ひしたるが如く全く其損益關係の結了するものを云ふ。假定取引とは結算に際し財産見積をなすが如きを指し其損益關係は唯た推定に止まりて全く決定する能はざるものを云ふ。

完・成・不・完・成・取・引 取引は其完成せると否とにより完成取引と未完成取引とに分たる。完成取引とは現金を當座預金としまた商品を買入れたる如く受渡双方の

權利義務即座に定まりて完了するものを云ふ。未完成取引とは地代を月始めに仕拂ひ給料を月末に仕拂ふ如く地代給料の仕拂は一回なるも其關係は其時に結了せざるものを云ふ。月始めに地代を仕拂ふはこれ其日の損失にあらずして謂はゞ地主に前金を貸與へ日々土地の使用によりて此前金と差引しゆくものなり。給料は其月始めより日々雇人の勞務を借受け月末に之が返金をなすものなり。然れども便宜前後の關係を認めずして單に現金受拂當日に於ける一箇の取引とすること一般なり。故に未完成の取引は取引關係の始に當りて假受渡により整理する時は完成取引となるを得べし。

既・決・未・決・ノ・取・引 取引は其取引の既決と否とにより既決取引と未決取引とに區別す。既決取引とは成算の出來たる取引にして其性質判然せるものを云ふ例へば現金にて商品を賣渡しまた掛勘定にて商品を買入れたる時の如し。未決取引とは其取引の追て結了する迄其性質定まらざるものを云ふ例へば旅費引當として現金を假支出したる如く其全部が旅費となるやまた殘金出するや決算の上ならでは判然せざるものを云ふ。

取引ノ整理 會計上起りたる取引は之を單成として取扱ふやまた複成として計理すべきや、完成として取扱ふや未完成として計理すべきや、これら取引の整理方法は大に注意を要すべし。また未完成と未決とは大に類似するが如きも其性質を異にし未完成は取引成りてより時々刻々之を消却しゆくも未決算は決算の期至れば忽ち其取引が財産の増減なるやまた變化なるやを明かにし一度に決算し得るものなり。共に之れ會計中困難なる問題なれば注意すべし。

第二章 會計法

第六節 會計ノ組織

會計單位 營業は箇人にて經營するありまた會社組織にするあり、本店の外に出張所支店を設くるあり、小賣を主とするあり、卸賣を主とするあり、自己の商品を賣買するあり他人の商品を販賣して手数料を受くるあり。而て營業會計はその營業に屬し營業に於ける財産の増減變化を計算處理するものなり。故に營業會計の主体は營業にて營業主は唯此主体に代りて指揮し資本家は此主体に資金を供

するのみ。されば會計上營業は其營業主とも資本家とも區別せられそれ自身會計の單位を形造るものとす。

會計小單位 然れども營業の都合により支店を置く時は支店は本店と離れて別に一小單位を形造りまた一店内を便宜卸賣部と小賣部とに分ち其經濟を異にせしむる時は卸賣部と小賣部はまた各單位を形造るなり。故に會計期間は各小經濟團體獨立して會計するも結算の期至れば其損益は悉皆本店に併算せらるゝものなり。

商店會計ニ必要ナル條件 商店會計には種々注意すべきものありと雖殊に左に掲ぐる項目は留意して處理計算を忽にすべからず。

第一 商品購入に關する諸拂

買入原價の外荷造費其他發送までの諸費用（若し出張して買入れたるものなれば出張旅費も此内に含まる）

第二 商品運送に關する諸拂

當方迄の運賃保険料及び運送問屋等の口錢をも含む

第三 商品持込に關する諸拂

商品陸上及び倉庫迄の持込賣（もし輸入税等あるものなれば税金を含む）

第四 仕入代金仕拂に關する諸拂

商品仕入代金支拂に要する費用即ち銀行手数料郵税等

第五 倉庫に關する諸拂

倉庫料保管料及び保管貨物の減損より來る見積損失等

第六 販賣に關する諸拂

廣告料販賣手数料割引其他客に對する損失等（得意先へ持廻りまたは地方へ巡回して販賣するものなればこれらの費用をも含む）

第七 賣殘商品より生ずる缺損補填

數ある商品中には全く賣殘となりまた破損等にて賣捌きの出來ざるものも生ずべし故にこれらの缺損は其組の商品全体によりて補填するを要す。即ち一種の缺損保険料なり。

第八 代金回收迄の金利

代金回收迄の金利は唯商品の原價のみに就て云ふにあらず諸掛費用の利子をも含む。

第九 間接費用に關する諸拂

借家料借地料雇人給料及び食料其他店用諸雜費并に右金利をも見積り割掛けて商品の賣價を知るを要す

第十 營業全体に就て起ることあるべき費用の填補

或は將來業務擴張の準備として販路を搜索する費用或は非常不時の災害に罹りたる時の保険料として其幾分を現在營業に負擔せしむ。

會計方法ノ大要 以上の十箇項目は少くとも營業經濟の主眼とする所にして會計方法の樞要なる條件なり。故に會計は先づ一年に一回若くは二回の結算期を定め此會計期間に於ける營業取引を右の項目に準じ其經常費と臨時費直接費と間接費とを區別して科目を定め此科目の分類によりて之が處理と計理とをなすべし。右は一般の場合にして此外特別に地方別若くは品別に仕入販賣高を知る必要ありまた賣掛金を特に整理せざるべからざる必要ありて大に會計方法に掛

酌を要すること亦多しとす。
 會計方法ノ研究 營業はそれぞれ會計方法に注文あり能く其營業に適應する會計方法を得るは蓋し容易にあらざるなり。然るに在來の方法を見るに毫も營業經濟の上に留意せず例によりて帳場は單に手代小僧の外見監督に止まりまた金錢出入帳を控へて金錢を出納し大福帳には賣場より來る當座帳の抜書をなして帳合を終ゆるのみ。營業經濟の漸次複雑となり營業方法の漸次改良せらるゝ今日は之に適する會計方法の研究また怠るべからざるものとす。

第七節 會計事務

重ナル會計事務 會計事務とは會計の範圍内にある業務を云ふ。今其重なるものを掲ぐれば左の如し。

- 1 資金に關する處理計理
- 2 地所家屋器具類に關する處理計理
- 3 營業收入に關する處理計理
- 4 營業支出に關する處理計理

- 5 雜收入及び雜支出に關する處理計理
 - 6 本支店に關する勘定の處理計理
 - 7 他店に關する勘定の處理計理
 - 8 手形に關する勘定の處理計理
 - 9 金錢當座預金に關する處理計理
 - 10 普通の貸借借入金に關する處理計理
 - 11 未收入未支拂に關する處理計理
 - 12 未決算假受渡に關する處理計理
 - 13 物品出入保管に關する處理計理
 - 14 有價證券類に關する處理計理
 - 15 會計帳簿の記入整理
 - 16 營業統計表類の作成
 - 17 傳票證憑等に關する處理計理及び保管
- 所謂會計方 以上述べたる會計事務は業務の都合上便宜關係多き掛に分擔せし

出入なるが故に忽にすべきものにあらず。殊に物品は金銭と異り唯其眞贋を見分け數量を計るのみに止まらず品質品位を吟味したる品物によりては特別の取扱法もありて其出入保管は金銭より困難なりとす。之に加へ度量衡器の取扱方によりて數量に差異を生じまた時日を経るに従ひ自然量目の減ずるものありまた取扱の度毎に自然數量を減損せしむる品も多ければ記帳の結果と現品との突合せは困難なり。通例倉庫方は有荷の不足を恐れ監督者も之に注意すと雖も一般に有荷は記帳の結果より幾分か減少するを本來とす。唯其減損は前に述べたる如く取扱によりまた時日の経過により生ずるものなれば平均して概ね一定し得べき歩合あり此歩合の内の減少は却て正當にして此歩合を超へて減損し若くは有荷に過剩ある時は大に研究すべきものとす。

商品ノ賣買。商品の賣買は其受渡の場所代金仕拂の方法等を明白に契約し之に準して會計すべし。世間に賣掛金の滞貸多きは種々の原因ありと雖もまた契約不備の爲め當方にては掛賣と認め先方にては毫も之を認ざることありこれらは帳簿に滞貸として残る一元因なり。又賣買の約成り代物受渡をなせば其都度店

内にて用ふる傳票の如き勘定報告書をカーボンにて三枚認め内一枚は控として保存し殘二枚は之を先方に送り此内一枚には承諾の趣を記載せしめて當方へ戻さしむべし。此手續は面倒の様なれど此勘定書の取替せなき爲め掛賣の入帳ある物品が行先不明となり終に大失態を醸すこと多し。故に多少の手續あるとも此報告は怠らざるを可とす。

土地家屋器具類。これらは常に注意して保全の道を講じ大切に保管整理するを要す。故に時々其狀況を實査し員數を検査しまた代金消却済のものゝと末消却のものゝと區別して營業經濟の確實を圖る用意をなすべし。殊に器具類は口數も多く中には備品として計理せるありまた中には消耗品として計理せるものあるが故にこれらの區別も判明ならしむるを要す。

公債證券株券類。これらは常に相庭に高下あるものなれば注意してその損失を蒙らざる様すべし。去りてこれを以て投機材料とするが如きは着實なる商家のすべきことにあらず。必竟商家がこれらの有價證券を所有するは保證金代用其他二三の便利あるが爲めにして決して投資以て收益の本源とすべきものに

あらざるなり。
手形小切手類 當方より振出の小切手は小切手帳の控を大切に保存し之れによりて引合すべし。他店より入來りたる小切手は可成其日の内に當方の取引銀行當座預金に振替ゆるを安全とす。當方振出の手形及び借用金證書の類は其控又は其寫を大切に保存すべし。他店より來りたる手形及び借用金證書はまた大切に保管し殊に手形類は之を銀行に寄托し取立をなましむるを便利とす。他より受入れたる手形に裏書して他人に譲渡す時は其手形の寫を取りて振出人各裏書人等の姓名を明かならしめ置くを要す。

第九節 會計の計理

會計帳簿 會計取引の顛末は帳簿を備へ一々記帳して之が計算をなすべし。而て會計帳簿は其營業會計の仕組に適應せる仕組を取りて會計上のことは大小洩れなく確實明瞭に記載すべし。是れ第一已れの爲め即ち我營業經濟の爲め必要なるのみならず第二他の爲め即ち我商法にも規定ありて他人との間に存在する權利義務を明かにする必要あればなり。

在來ノ帳合法 在來の帳合法は別に定まりたる法則とてはなきも金錢の出入は金錢出入帳に仕入は仕入帳に賣上は賣上帳に他人への貸金は大福帳に記入し營業の損益は賣買損益に諸雜費を加減して之を求むるを一般とす。而して金錢の出入他人への貸金に就ては出入の文字を用ひ我店に入りたるを入とし我店より出でたるを出として記帳す。また其様式は一ち打ち書きの古風もあれど近來は野線を用ひ數字もアラビヤ式に倣ひ之を認むる者多きに至れり。

單式簿記法 在來の帳簿に野線を利用して他人への貸金を記入する大福帳に我借金をも記入しこれら諸帳簿と實際とを對照して現在の身代を知り之を開算當時の身代と比較して身代の増減を知る仕組を採用するもの之を單式簿記とす。此法は即ち在來の帳合法より一步進みたる計理方法なりと雖も營業取引の性質漸く複雑せんとする今日には余り適當の方法と謂ふべからず。

複式簿記法 單式にては記入に數多の帳簿を要し結算するにはこれらの帳簿を合せて之を實地に對照せざるべからず。於之乎一冊の元帳と稱するものを以て諸帳簿に代用し一切の取引は悉皆此元帳に記入し此一冊にて營業の資産負債損

失利益を見るの仕組を發明せり是れ今日複式と稱する簿記法にして其進歩したる形式は多く世間に採用せらる。

複式簿記ノ改良 複式簿記の方法は其後時代の要求に連れ漸次改良進歩しかの總勘定の元帳に添ゆるに種々の補助帳簿を用ひまた補助帳簿は唯だ綴合せたる簿冊のみならず近來はカードと稱し紙片を用ふるに至れり。而て其記入方法もまた會計方法の仕組により種々の斟酌加減をなし可成手數少くして確實明瞭なる記載方法を得んとせり。

第十節 會計検査

會計検査ノ必要 會計は確實明瞭なるを要す故に注意の上にも注意して誤謬なき様すべし。されば銀行會社に於ては營業部に検査課を置き斷へず之が會計を監督せしめ取締役に對しては監査役を置きて全体に關する監査機關を備ふるなり。規模に大小こそあれ商店の會計も會社の會計も會計は共に確實明瞭なるべし故に商店に於ても此検査課及び監査役に比すべき検査機關を備へ會計の安全を圖るべし。

パブリック・アカウンタント 然れども規模の小なる營業に於ては別に検査掛等を設くこと大に經濟上不利益の觀あるが如し。而て其不利益なるや否やは兎に角別問題とし會計検査の必要を認むる以上は之れに相應する方法を講すべし。歐米にはパブリック・アカウンタントと稱し公衆の依頼に應じ會計の調査検査を業とするものあるが故に別に検査掛等を置かずして斯業者を利用する者多し。公共監査業 此公共監査業は歐米にては盛に行はれ我が公證人の如く相應の資格を有する者公認せられて箇人また會社の依頼に應じ時にまた官衙に出入して會計の検査調査をなせり。故に商人は安全して我會計の整理に相談相手とし我會計の改良に助言を請ひ我會計を委細に検査せしむることを得。我國にては未だ斯専門業者なく唯此書の著者が明治四十年の春斯業を開始し廣く公衆の依頼に應ずるの外之れあるを聞かず。

第三章 簿記法

第十一節 商業帳簿

商業帳簿ノ必要 商業帳簿は營業に於ける財産の收支顛末を明かにし之によりて營業の資産負債と損失利益とを一目瞭然ならしむるものなり。帳簿は斯く現在に於ける實況を明示するのみならず過去の成績を統計的に分解して將來に於ける營業方針を定むる好材料を與ふるものなるが故に其記帳方法は大に研究すべきものとす。

完全ナル簿記法 帳簿記入の方法には在來の帳合法あり單式簿記法ありと雖も今日の營業に通じて完全なるは複式を基礎とせる簿記法なり。蓋し營業取引を記録するものは第一に取引の要素第二に受渡第三に受渡の結果を明かにし尙ほ他日の爲め完全なる統計材料たるべき分類をなし且つ其記録完全にして記入するに便利に引合するに明白なるを要す。此等の要件を具備するものは複式簿記法なり。

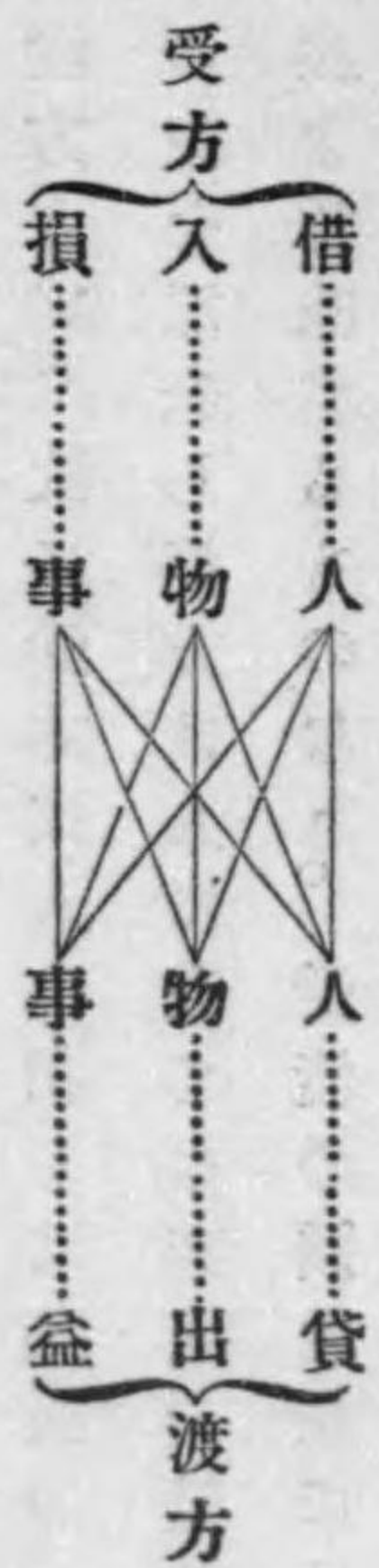
複式簿記法 此法は一般に取引は受渡の二者より成ると云ふ元則に基き始めは歴史的に之を日記帳へ記入して其受渡を仕譯け次に受渡したる要素別に之を元帳へ類別的記入をなし價の性質によりて之を資産負債と損失利益の二類に大別

し以て營業會計の顛末を知るものなり。

第十二節 仕譯の法式

記入ノ法式 在來の帳合法は別に記入の法式として定まりたるものなく唯我店への出入を本位として金錢の出入貸金の出入を仕譯記入せり。單式簿記法は金錢物品には出入他人との貸借には貸借を以て取引を仕譯け各自の帳簿へ記入するも未だ總ての取引を通じて一般の法式無し。複式簿記法は各取引を一々分解して其取引の要素を認め之に適當なる名稱を附して其受渡を別ち之を記帳するを一般の法式とす。

受渡ノ意義 記入の第一着は取引の仕譯なりこの仕譯に就ては受渡の意義を知るを要す。受渡の意義を明かならしめんとせば前出會計取引の取引結構（第一章第四節）を充分會得するを要す。會計取引に於て受ける要素は受方とし渡したる要素は渡方とす。故に受方は人に在ては其人の借物に在ては其物の入事に在ては其事の損を意味し渡方は人に在ては其人の貸物に在ては其物の出事に在ては其事の益を意味するものなり。受渡の圖を左に示さん。



人ノ借貸 人に關する要素の受方は其人の借にて渡方は其人の貸なり。今其内容を擧ぐれば左の如し。但し説明は其借方たる人(甲)より見るべし。

借 (甲某)

債務を生ず 乙店より商品掛買したる場合の如し。

債權を減ず 乙店より掛代金を現金にて受取りたる場合の如し。

貸 (甲某)

債務を生ず 乙店へ商品掛賣したる場合の如し。

債權を減ず 乙店へ掛代金を現金にて仕拂ひたる場合の如し。

物ノ出入 物に關する要素の受方は其物の入にて渡方は其物の出なり。今其内容を擧ぐれば左の如し。

入

物品を受く

状態を代へて物品を受く

商品を買入れたる時の商品の如し。
商品を積送品としたる時の積送品の如し。

出

物品を渡す

賣捌きたる時の商品の如し。

状態を代ゆる爲め物品を渡す 積送品にしたる時の商品の如し。

事ノ損失 事に關する要素の受方は其事の損にて渡方は其事の益なり。今其内容を左に掲ぐ。

損

永久の損失 火災の爲め保険を附せざる物品を焼失したる時の如し。

一時の損失 運賃を仕拂ひたる時の如し。

益

永久の利益 他人より好意に金品の贈賂を受けたる時の如し。

一時の利益 賣却したる屑物不用物品代の如し。

直接及ビ間接ノ受渡 普通に借貸又は受渡は之を取扱ふ者より見て己れが渡し

總説 簿記法

たる時に渡と云ひ己れに受けたる時に受と云ふ。然るに會計學上は一般に取引要素の科目より云ひ其科目が渡したる時は渡方にして其科目が受けたる時は受方なりとす。而て取引に於て要素と要素とが直接對立して構成するもの之を直接受渡と云ふ。然れども取引は常に帳場を経て成るものなるが故に間接に各要素は帳場と受渡の關係を有すこの受渡を間接受渡とは云ふなり。

取引受渡ノ例 某甲へ商品を掛賣すとせば此取引は受方某甲にして渡方商品なりこれ即ち各要素より直接に見たる直接受渡なり。今これを間接に云ふときは商品は帳場に渡し帳場は之を某甲に渡したるものなり。然れども帳場は商品より受け直に某甲に渡すが故結局帳場の受渡は差引せられて取引は受方某甲渡方商品となりて受渡は直接に之を云ふも間接に之を云ふも同じ結果となること左の如し。

| | | | |
|----|---------|----|---------|
| 帳場 | 五〇〇、〇〇〇 | 商品 | 五〇〇、〇〇〇 |
| 甲某 | 五〇〇、〇〇〇 | 帳場 | 五〇〇、〇〇〇 |

故に

仕譯ノ法式 取引受渡は記帳上直接受渡により上部又は左傍を受方とし下部又は右傍を渡方として之を區別す之を形式によりて示めせば左の如し。

甲某 五〇〇、〇〇〇 商品 五〇〇、〇〇〇

| | | | | |
|---------|-----------|------------|------------|----------|
| 五〇〇、〇〇〇 | 三〇〇、〇〇〇 | 三五〇、〇〇〇 | 二〇〇、〇〇〇 | 一一七〇、〇〇〇 |
| 現金 | 商品 | 甲某 | 雜費 | |
| 現金ニテ元入 | 現金ニテ商品ニ買入 | 掛ニテ甲へ商品ヲ賣渡 | 雜費ヲ現金ニテ仕拂フ | |
| 資本 | 金 | 商品 | 金 | |
| 五〇〇、〇〇〇 | 三〇〇、〇〇〇 | 三〇〇、〇〇〇 | 二〇〇、〇〇〇 | 一一七〇、〇〇〇 |
| | | 賣買損益 | 金 | |
| | | 五〇〇、〇〇〇 | 二〇〇、〇〇〇 | |

受(損)

雜費

(益) 渡

現金仕拂高

二〇〇〇〇

第十四節 試算ノ法式

試算ノ法式 類別記入は仕譯記入より轉寫したるものなるが故に仕譯記入に於ける受渡の各合計は類別記入に於ける各類別受渡の各總計に均しされば各類別に於ける差額は受渡に於て合計また一致すべし。此理に基き両記入の金額を突合せて轉寫に誤記あるや否やを判定す之れを試算の法式と云ふ。類別式記入の結果は左の如し。

| | |
|---|---|
| 殘 | 受 |
| 計 | |

資本

| | |
|---|---|
| 計 | 渡 |
| 殘 | |

| | |
|--------|---------|
| 一八〇〇〇〇 | 五〇〇〇〇〇 |
| 三五〇〇〇〇 | 三五〇〇〇〇 |
| 二〇〇〇〇〇 | 二〇〇〇〇〇 |
| 五五〇〇〇〇 | 一一七〇〇〇〇 |

金 錢
商 品
賣買損益
甲 某
雜 費

| | |
|---------|--------|
| 三二〇〇〇〇 | 三〇〇〇〇〇 |
| 五〇〇〇〇〇 | 五〇〇〇〇〇 |
| 一一七〇〇〇〇 | 五五〇〇〇〇 |

第十五節 結算ノ法式

結算ノ法式 結算とは連續せる取引の價を其性質により分類して流通の價は之を資産負債に分ち相對の價は之を損失利益に分ち以て營業の結果を明示することを云ふ。今前書取引に於ける各要素の計算尻を其價の性質により分類する時は左の如し。

受(資産)

流通價格ニ屬スル分

(負債) 渡

金 錢

一八〇〇〇〇 資本

五〇〇〇〇〇

受 (損失)

損失利益

四二

(利益) 渡

雑費
配分すべき利益金

賣買損益

五〇〇〇〇

| | | |
|-------|-------|-------|
| 二〇〇〇〇 | 三〇〇〇〇 | 五〇〇〇〇 |
|-------|-------|-------|

| | |
|-------|-------|
| 五〇〇〇〇 | 五〇〇〇〇 |
|-------|-------|

第二編 記帳及び結算

第四章 主要記帳

第十六節 日記帳

●日記帳 ●日記帳とは營業の取引は如何なるものにてても其起りたる都度之が受渡を仕譯けて取引の要項を記する營業日誌にてまた元帳へ轉寫の準備記帳ともなるものなり。此帳簿は仕譯の法式に基きたるものにて左に寄りたる科目と金額

は受方のものにて右に寄りたる科目と金額は渡方のものなり。此帳簿は一頁毎に繰越の合計をなして一ヶ月總計を出せりと雖も取引多き所に於ては一日毎に繰越合計をするを可とす。

(注意) 此例題の取引は宣徳花瓶の卸賣業にて五月六月の二ヶ月分を掲ぐ。説明の便を計り壹箇月を以て一會計期とし五月は繰越にて六月は締切にて結算す。會計の勘定科目は資本、金錢、商品、人名 (賣買先は何れも交互計算の約あるものとす) 受取口手形、仕拂口手形、借入金、貸付金、當座預金、雑收入、雑損失、受取未済、仕拂未済、未決算、公債及び株券、地所及び家屋、營業費等とし便宜之を設定することとす。資本主の私借を店方へ引受けたるは立替金とせずして資本の勘定にて計理することとす。此例題は單に日記帳と元帳とを以て百般の取引を計理することとす故に日記帳の記事は明細なるを要す。各取引の受渡仕譯は簿記法仕譯の法式 (第三章第十二節) により前書會計の勘定科目を適用して考ふべし。

(日記帳)

(1)

明治四十三年五月一日

| 本日開業 | | 元 | 角 |
|------|----------------|------------|----------|
| 2 | 金 錢 | 7500000 | 1 |
| | 現金ニテ元入宣徳花瓶卸賣營業 | | 2 |
| 3 | 雑 費 | 87000 | 2 |
| | 現金ニテ左ノ通仕拂フ | | |
| | 開店諸費用 | 30.000 | |
| | 本月分家賃 | 25.000 | |
| | 新聞廣告料 | 32.000 | |
| 4 | 商 品 | 6200000 | 2 |
| | 木下商店ヨリ現金ニテ買入ル | | |
| | 宣徳 無地象眼入 | 400箇@9.500 | 3800.000 |
| | ク 新形元祿 | 400箇@6.000 | 2400.000 |

| | | | | |
|---|--------------|-------------|---|----------|
| 2 | 金 錢 | 2300000 | 4 | 2300000 |
| | 太田商店へ現金ニテ賣渡ス | | | |
| | 宣徳 無地象眼入 | 200箇@11.500 | | |
| 5 | 商 品 | 115000 | 4 | 115000 |
| | 山口商店 | | | |
| | 同店へ掛賣 | | | |
| | 宣徳 無地象眼入 | 10箇@11.500 | | |
| 3 | 雑 費 | 25000 | 2 | 25000 |
| | 現金ニテ左ノ通仕拂フ | | | |
| | 帳簿代金 | 5.000 | | |
| | 印刷物代外 | 10.000 | | |
| | 車賃等 | 10.000 | | |
| 4 | 商 品 | 96000 | 6 | 96000 |
| | 宣徳 花鳥象眼入 | | | |
| | 土崎工場 | | | |
| | 3箇@32.000 | | | |
| | (2) ~ | | | |
| | 16323000 | | | 16323000 |

記帳及び結算 主要記帳

四四

(2)

明治四十三年五月十三日

| | | | |
|-----------|-------------------------|----------|-----------|
| 16323,000 | (1)ヨリ | | 16323,000 |
| 2985,000 | 4 商品 | 仕拂口手形 | 2985,000 |
| | 北村工場ヨリ買入ル | | |
| | 宣徳 花鳥並物 50箇@ 3,500 | 175,000 | |
| | ク 山水小 20箇@ 3,000 | 60,000 | |
| | ク 百合浮彫 250箇@11,000 | 2750,000 | |
| | 右代金ニ對シ左ノ約手ヲ振出ス | | |
| | 第一號當店振出 六月廿五日拂約束手形 | 2750,000 | |
| | 第二號 ク 八月九日拂 ク | 235,000 | |
| 500,000 | 1 資本 | 借入金 | 500,000 |
| | 江口定吉ヨリ借入金ヲ店方ニ引受ク | | |
| 500,000 | 8 借入金 | 仕拂口手形 | 500,000 |
| | 借入金 | | |
| | 江口定吉ヨリノ借入金ヲ第三號當店振出本月廿三日 | | |
| | 拂約手ニテ仕拂フ | | |

| | | | |
|-----------|--------------------------|----------|-----------|
| 57,500 | 10 受取口手形 | 商品 | 57,500 |
| | 澤井又三郎~同人振出七月十三日拂ノ約手ニテ賣渡ス | | |
| | 宣徳 花鳥並物 10箇@4,000 | 40,000 | |
| | ク 山水小 5箇@3,500 | 17,500 | |
| 20,000 | 2 金 | 山口商店 | 20,000 |
| | 山口商店ヨリ掛金ノ内受入 | | |
| 500,000 | 7 仕拂口手形 | 金 | 500,000 |
| | 江口定吉宛約束手形満期ニ付仕拂フ | | |
| 1743,750 | 2 金 | 商品 | 1743,750 |
| | 太田商店へ現金ニテ賣渡ス | | |
| | 宣徳 花鳥並物 5箇@ 3,750 | 18,750 | |
| | ク 百合浮彫 150箇@11,500 | 1725,000 | |
| 22629,250 | | | 22629,250 |

記帳及び結算 主要記帳

(3)

明治四十三年五月廿五日

| | | | | | | |
|-----------|----|------------|-----------|--------|---|-----------|
| 22629.250 | | | | | | 22629.250 |
| 115.000 | 11 | 千代田商會 | (2) ヲリ | 商品 | 4 | 115.000 |
| | | 同會へ掛ニテ賣渡ス | | | | |
| | | 宣德 花鳥並物 | 20箇@4,000 | 80,000 | | |
| | | ク 山水小 | 10箇@3,500 | 35,000 | | |
| | | | 28 | | | |
| 72.000 | 3 | 雜費 | | 金 錢 | 2 | 72.000 |
| | | 現金ニテ左ノ通仕拂ヲ | | | | |
| | | 運送費用 | 12,000 | | | |
| | | 瓦斯點火料 | 4,500 | | | |
| | | 雇人給料 | 30,000 | | | |
| | | 賄料 | 25,500 | | | |
| 22816.250 | | | | | | 22816.250 |

(注意) 次に掲ぐるものは前出日記帳の引續にて即ち六月分の取引なり。
 六月五日の取引に 諸口……………商品 とある諸口は科目にわらず商品は
 鈴木商店及び金錢の諸口に對して渡方なりと云ふ義を意味す、故に商品は
 此諸口に對して金一千二百圓の渡方となり此商品に對して鈴木商店は金
 六百圓、金錢は金六百圓の受方となるなり。同八日の取引に於て千代田商
 會に仕拂はしむる金五十圓は已に仕拂濟となりたるものなり。もし單に
 仕拂はしむる約束なれば矢張仕拂迄は當方の掛勘定とし志田甲太郎の金
 額を金百六十二圓五十錢とするを確實とす。同十日の擔保借入金には別
 に計理法あれど今簡便なる仕譯法を用ふ。廿五日の株券配當金は配當金
 杯の科目を用ふるものあれど商家にては寧ろ雜收入とするを適切なりと
 す。同卅日の千代田商會より受取たる金にて直に雜費の仕拂に充てたる
 は簡便の爲めに現金の受拂を省略せるものなり。尙ほ各取引の仕譯は仕
 譯の法式により熟考して之を合點すべし。

明治四十三年六月一日

五〇

| 引續キ營業 | | 資本 | |
|-------|------------------------------|----|---------|
| 諸口 | 本日増元入 | 1 | 6250000 |
| 12 | 公債及株券 大東紡績株式會社株券五拾株 @105,000 | | |
| 13 | 第一當座預金 現在預金高 | | |
| 2 | 95000 | 3 | 95000 |
| 金 | 掛殘金ヲ受取ル | 5 | |
| 諸口 | 山口商店 | | |
| 14 | 600000 | 4 | 1200000 |
| 諸口 | 鈴木商店～賣渡ス | | |
| | 宣德 百合浮彫 100箇@12,000 | | |
| 14 | 600000 | 4 | |
| 金 | 鈴木商店 半額ハ掛勘定ノコト | | |
| 2 | 600000 | 6 | |
| 諸口 | 半額ハ現金受入 | | |
| | | 4 | 72000 |

| | | | | | | |
|---------|----|-------|-----------------------|-----------|----|---------|
| 20000 | 2 | 金 | 千代田商會～賣渡ス | 2箇@36,000 | | |
| 52000 | 11 | 錢 | 宣德 花鳥象眼入 | | | |
| 212500 | 4 | 諸口 | 代金内受入 | | | |
| | | | 千代田商會 殘金ハ掛勘定ノコト | | | |
| | | | | 8 | | |
| | | 諸口 | 志田甲太郎ヨリ買入ル | | | |
| | | | 宣德 丸形籠目 三番 100箇@1,000 | 100,000 | | |
| | | | ク 四番 150箇@ 7,500 | 112,500 | | |
| | | 金 | 代金ノ内現金ニテ仕拂フ | | 2 | 50000 |
| | | 千代田商會 | 代金ノ内金五十圓ハ千代田商會ニ仕拂ハシム | | 11 | 50000 |
| | | 志田甲太郎 | 代金殘金ハ掛トス | | 15 | 112500 |
| | | 9 | | | | |
| 62500 | 4 | 商品 | 木下商店 | | 16 | 62500 |
| | | | 木下商店ヨリ掛買 | | | |
| | | | 宣德 六角花鳥 | 50箇@1,250 | | |
| 7892000 | | | (5)～ | | | 7892000 |

(5)

明治四十三年六月十日

五二

| | | (4) ヨリ | |
|----------|----|----------------------------|---------------------|
| 7892000 | 17 | 地所及家屋 | 諸口 |
| 10000000 | | 營業用地所及家屋此代金壹萬圓也今井安太郎ヨリ買入ル | |
| | | 金 錢 | 内金仕拂 |
| | | 擔保借入金 | 殘金千圓ハ右不動産抵當ノ借金證書差入ル |
| 575000 | 10 | 受取口手形 | 商 品 |
| | | 吉川佐平ハ七月四日拂ノ約手ニテ賣渡ス | |
| | | 宣德 無地象眼入 | 13 |
| | | | 50箇@11,500 |
| 2160000 | 2 | 金 錢 | 公債及株券 |
| | | 篠田商店ハ現金ニテ賣渡ス | |
| | | 大東紡績株式會社株券 二拾株 @108,000 | 15 |
| 16000000 | 4 | 商 品 | 仕拂口手形 |
| | | 天川商店ヨリ買入レ右代金ニ對レ同店販出山本良次郎請取 | |

| | | | | | |
|----------|---|--------------|-------------------|----|----------|
| 412500 | 2 | 金 錢 | 一覽後三十日拂爲替手形仕拂ヲ引受ク | | |
| | | 宣德 山水浮彫臺附 | 200箇@8,000 | 4 | 412500 |
| | | 北田商店ハ現金ニテ賣渡ス | | | |
| | | 宣德 山水浮彫臺附 | 50箇@3,250 | 4 | 103500 |
| 103500 | 2 | 金 錢 | 吉田仁平ハ現金ニテ賣渡ス | | |
| | | 宣德 丸形籠目 三番 | 25箇@1,120 | 4 | 28,000 |
| | | ク 山水小 四番 | 50箇@ ,850 | 4 | 42,500 |
| | | ク 六角花鳥 | 5箇@3,000 | 4 | 15,000 |
| | | | 12箇@1,500 | 4 | 18,000 |
| 300000 | 2 | 金 錢 | 雜收入 | 18 | 300000 |
| 23043000 | | | 大東紡績株式會社配當金受入 | | 23043000 |
| | | | (6) ハ | | |

記帳及び結算 主要記帳

五三

(6)

明治四十三年六月三十日

| | | | | | |
|--------------------------------|--------|-----------|-------|----------|----------|
| 23043000 | | (5) ヨリ | | 23043000 | |
| 3 | 65,000 | 11 | 千代田商會 | 65,000 | |
| 千代田商會ヨリ掛金ノ内金六十五圓現金ニテ受入レ左ノ仕拂チナス | | 千代田商會 | | | |
| 本月分家賃 | | 25,000 | | | |
| 諸印刷物代 | | 40,000 | | | |
| 3 | | 2 | 金 | 150,000 | |
| 150,000 | | 現金ニテ左ノ仕拂ヲ | | | |
| | | 新聞廣告料 | | 25,000 | |
| | | 運送費用 | | 15,000 | |
| | | 瓦斯點火料 | | 5,000 | |
| | | 雇人給料 | | 30,000 | |
| | | 賄料 | | 30,000 | |
| | | 來客接待費 | | 35,000 | |
| | | 雜用 | | 10,000 | |
| 23258000 | | 2 | | 150,000 | 23258000 |

第十七節 元帳

元帳 元帳は日記帳の仕譯に従ひ各科目毎に口座を設け指定の科目に指定の受渡を轉寫せしむるものにて即ち類別の法式によりて成るものなり。元帳の口座は之を勘定の科目と稱し各科目は何れも其科目を本位とし科目の受けたるものは受方に科目の渡したるものは渡方に記入すべし。

元帳轉寫ノ手續 日記帳の渡方にあるものは之を其科目の渡方へ受方にあるものは之を其科目の受方へ記入すべし。而て轉寫の際元帳勘定には日記帳の頁を認め日記帳には元帳勘定の所在頁數を記るし以て轉寫濟の合印としまた他日引合せの便に供すべし。

(注意) 元帳勘定に於ける日附の前の一欄は引合欄にして勘定書を作りまた他と引合はせする時に引合印の捺印をする所とす。科目は資本を第一に開き其他は取引順また記入の都合により便宜取計ふて可なり。科目多き所にては索引を作りまた科目に紙の小札を附して檢出に便ならしむべし。

(4)

商 品

水〇

| | | | |
|----------|---------|------|----------|
| 43/5 | | 43/5 | |
| 6 金 錢 | 木下商店ヨリ | 1 1 | 6200,000 |
| 12 土崎工場 | 同工場ヨリ | 1 1 | 96,000 |
| 13 仕掛口手形 | 北村工場ヨリ | 2 2 | 2985,000 |
| 43/5 | | 43/5 | |
| 7 金 錢 | 太田商店へ | 1 1 | 2300,000 |
| 8 山口商店 | 同店へ | 1 1 | 115,000 |
| 20 受取口手形 | 澤井又三郎へ | 2 2 | 57,500 |
| 24 金 錢 | 太田商店へ | 2 2 | 1743,750 |
| 25 千代田商會 | 同會へ | 3 3 | 115,000 |
| 43/5 | | 43/5 | |
| 19 損 益 | | 19 | 9281,000 |
| 43/5 | | 43/5 | |
| 5 繰 越 | 鈴木商店へ | 4 4 | 1200,000 |
| 6 諸 口 | 千代田商會へ | 4 4 | 72,000 |
| 12 受取口手形 | 吉川佐平へ | 5 5 | 575,000 |
| 43/5 | | 43/5 | |
| ※30 損 益 | | 19 | 518,750 |
| 43/5 | | 43/5 | |
| 1 繰 越 | 志田甲太郎ヨリ | 4 4 | 5468,500 |
| 8 諸 口 | | 4 4 | 212,500 |
| 9 木下商店 | 同店ヨリ | 4 4 | 62,500 |
| 43/5 | | 43/5 | |
| ※30 損 益 | | 19 | 9799,750 |

| | | | |
|----------|--------|------|----------|
| 43/5 | | 43/5 | |
| 15 仕掛口手形 | 天川商店ヨリ | 5 5 | 1600,000 |
| 43/5 | | 43/5 | |
| 15 金 錢 | 北田商店へ | 5 5 | 412,500 |
| 20 ク | 吉田仁平へ | 5 5 | 103,500 |
| 43/5 | | 43/5 | |
| ※30 損 益 | | 19 | 7343,500 |
| 43/5 | | 43/5 | |
| 15 金 錢 | | 20 | 247,500 |
| 20 殘 高 | | 20 | 5228,000 |
| 43/5 | | 43/5 | |
| ※30 損 益 | | 20 | 7591,000 |

記帳及手帳簿 主要記帳

(5)

山口商店

六二二

| | | | | | | | | | | | |
|---|----|-------|------|---|--------|-----|-----|------|------|---|--------|
| 8 | 商品 | 無地象眼入 | 43/5 | 1 | 115000 | 21 | 金繰越 | 43/5 | 掛金内入 | 2 | 20000 |
| | | | | | 115000 | ※30 | | | | | 95000 |
| 1 | 繰越 | | 43/6 | | 95000 | 3 | 金繰越 | 43/6 | 掛残金入 | 4 | 95000 |
| | | | | | | | | | | | 115000 |

(6)

土崎工場

| | | | | | | | | | | | |
|-----|----|--|------|--|-------|----|----|------|-------|---|-------|
| ※30 | 繰越 | | 43/5 | | 96000 | 12 | 商品 | 43/5 | 花鳥象眼入 | 1 | 96000 |
| | | | | | | | | | | | |
| ※30 | 残高 | | 43/6 | | 96000 | 1 | 繰越 | 43/6 | | | 96000 |
| | | | | | | | | | | | |

(10)

受取口手形

六六

| | | | | | | | |
|----|-------------|------|---------|-----|----|------|---------|
| 20 | 商品 七月十三日掛約手 | 43/5 | 57,500 | ※30 | 繰越 | 43/5 | 57,500 |
| 1 | 繰越 | 43/6 | 57,500 | ※30 | 繰越 | 43/6 | 632,500 |
| 12 | 商品 七月四日掛約手 | | 575,000 | | | | |
| | | | 632,500 | | | | 632,500 |

(11)

千代田商會

| | | | | | | | |
|----|-------------|------|---------|-----|-----------|------|---------|
| 25 | 品商 花鳥並物外 | 43/5 | 115,000 | ※30 | 繰越 | 43/5 | 115,000 |
| 1 | 繰越 | 43/6 | 115,000 | 8 | 商品 | 43/3 | 50,000 |
| 6 | 商品 花鳥象眼入代ノ内 | | 52,000 | 30 | 志田甲太郎ノ内受入 | | 65,000 |
| | | | 167,000 | ※30 | 雑費 | | 115,000 |
| | | | 167,000 | | 高 | | 52,000 |
| | | | | | 高 | | 167,000 |

六六

(12)

公債及株券

| | | | |
|--------|---------|------------|----------|
| 43/6 | | 43/6 | |
| 1 資本 | 大東紡績五十株 | 4 金 | 大東紡績二十株 |
| ※30 損益 | | 13 残高 | |
| | | 5 残高 | |
| | | 4 5250,000 | 2160,000 |
| | | 60,000 | 3150,000 |
| | | 5310,000 | 5310,000 |

(13)

第一當座預金

| | | | |
|------|--------|------------|----------|
| 43/6 | | 43/6 | |
| 1 資本 | 當座預金元入 | 4 残高 | |
| | | ※ 残高 | |
| | | 4 1000,000 | 1000,000 |

(14)

鈴木商店

| | | | |
|------|---------|-----------|---------|
| 43/6 | | 43/6 | |
| 5 商品 | 百合浮彫代ノ内 | 4 残高 | |
| | | ※30 残高 | |
| | | 4 600,000 | 600,000 |

(15)

志田甲太郎

| | | | |
|--------|--|-----------|---------|
| 43/6 | | 43/6 | |
| ※30 残高 | | 8 商品 | 丸形籠目代ノ内 |
| | | 4 残高 | |
| | | 4 112,500 | 112,500 |

(16)

木下商店

70

| | | | | | | | | |
|-----|----|------|--------|---|----------|------|---|--------|
| ※30 | 残高 | 43/6 | 62,500 | 9 | 商品 六角花鳥代 | 43/6 | 4 | 62,500 |
| | | | | | | | | |

(17)

地所及家屋

| | | | | | | | | |
|-----|----|-------|-----------|-----|----|------|---|-----------|
| 10 | 諸口 | 43/6 | 1,000,000 | ※30 | 残高 | 43/6 | 5 | 1,200,000 |
| ※30 | 損益 | 今井安太郎 | 2,000,000 | | | | | |
| | | | 1,200,000 | | | | | |

(18)

雑収入

| | | | | | | | | | |
|-----|----|------|----|---------|----|-------------|------|---|---------|
| ※30 | 損益 | 43/6 | 19 | 300,000 | 25 | 金 錢 大東紡績配當金 | 43/6 | 5 | 300,000 |
| | | | | | | | | | |

(19)

損益

| | | | | | | | | | |
|-----|----|------|---|---------|----|----|------|---|---------|
| 30 | 雑費 | 43/5 | 3 | 184,000 | 30 | 商品 | 43/5 | 4 | 518,750 |
| ※30 | 資本 | | 1 | 331,750 | | | | | |
| | | | | 518,750 | | | | | 518,750 |
| 30 | 雑費 | 43/6 | 3 | 215,000 | 30 | 商品 | 43/6 | 4 | 247,500 |

記帳及び結算 主要記帳

71

記帳及び結算 主要記帳

711

| | | | | | | | |
|-----|----|----|---------|----|-----------------------|-----|---------|
| ※30 | 資本 | 元1 | 2392500 | 30 | 公債及株券 地所及家屋 雑收入 | 元12 | 60000 |
| | | | | ク | | 元17 | 2000000 |
| | | | | ク | | 元18 | 300000 |
| | | | 2607500 | | | | 2607500 |

(20)

残

高

| | | | | | | | | |
|----|-------|------|-----|---------|----|-------|-----|---------|
| 30 | 金 錢 | 43/5 | 元2 | 7170750 | 30 | 土崎工場 | 元6 | 96000 |
| ク | 商 品 | | 元4 | 5228000 | ク | 仕拂口手形 | 元7 | 4585000 |
| ク | 受取口手形 | | 元10 | 632500 | ク | 擔保借入金 | 元9 | 9000000 |
| ク | 千代田商會 | | 元11 | 52000 | ク | 志田甲太郎 | 元15 | 112500 |
| ク | 公債及株券 | | 元12 | 3150000 | ク | 木下商店 | 元16 | 62500 |

第一當座預金
鈴木商店
地所及家屋

| | | | | | | | |
|---|--------|-----|----------|---|----|----|----------|
| ク | 第一當座預金 | 元13 | 1000000 | ク | 資本 | 元1 | 15977250 |
| ク | 鈴木商店 | 元14 | 600000 | | | | |
| ク | 地所及家屋 | 元17 | 12000000 | | | | |
| | | | 29833250 | | | | 29833250 |

記帳及び結算 主要記帳

711

るものなり。斯く最初の記入は異なる如しと雖も総合は結算に當りて之を分解するものなれば終に同一の結果となるべし。今現金百圓にて商品十箇買入れ内五箇を現金六十圓にて販賣したりとし右兩法を比較すれば左の如し。

分解仕譯法

| | | | | |
|------|----|-----|----|-----|
| 買入の時 | 商品 | 一〇〇 | 金銭 | 一〇〇 |
| 販賣の時 | 商品 | 一〇〇 | 金銭 | 一〇〇 |

| | | | |
|-----|----|----|----|
| 金銭 | 六〇 | 商品 | 五〇 |
| 損益買 | 一〇 | | |

斯く分解法は記帳の際一々分解するが故に記帳の儘にて其結果左の如くなるべし。

商品

綜合仕譯法

| | | | | |
|------|----|-----|----|-----|
| 買入の時 | 商品 | 一〇〇 | 金銭 | 一〇〇 |
| 販賣の時 | 商品 | 一〇〇 | 金銭 | 一〇〇 |

| | | | |
|----|----|----|----|
| 金銭 | 六〇 | 商品 | 六〇 |
|----|----|----|----|

綜合法は記帳の際分解せずと雖も結算に至りて左の如く分解計算すべし。

商品

| | | | |
|-------|-----|-----|----|
| 十箇 | 一〇〇 | 五箇 | 五〇 |
| (残五箇) | 五〇 | | |
| 一〇〇 | | 一〇〇 | |

| | | | |
|-------|-----|-----|----|
| 十箇 | 一〇〇 | 五箇 | 六〇 |
| (残五箇) | 五〇 | | |
| 一〇〇 | | 一〇〇 | |

| | | | |
|------|-----|----|----|
| (利益) | 一〇〇 | 五箇 | 一〇 |
|------|-----|----|----|

| | | | |
|----|-----|----|-----|
| 利益 | 一〇〇 | 一〇 | 一〇〇 |
|----|-----|----|-----|

第十八節 記帳試算

記帳試算ノ手續 記帳は時々試算して帳簿と帳簿との突合せをなし記入を確實ならしむべし。之を金額の上より試算するものは試算の法式に基き元帳試算表を作りて日記帳と元帳との試算突合せをなすべし。日記帳は毎日其合計を出すか若くは毎日又は毎頁に繰越合計をなして其取引の受渡金高を知る、元帳記入は元帳試算表によりて受渡の各總計を知り之を日記帳の合計と對照すべし。若し其金額にして符合せば日記帳より元帳への轉寫に誤謬なきものなり。若し其金額に注意 元帳試算表受渡の金額符合しまた日記帳と一致したりとて全く

轉寫に誤謬なしと云ふべからず。若し日記帳の仕譯を全く反對に即ち甲の受方を乙の渡方に記入し乙の渡方を甲の受方に記入するが如き若くは甲科目を誤りて乙科目へ記入したるが如き失錯は受渡の金額に差異なきが故に毫も試算表の突合により發見し能はざるものなり。此外日記帳の記入全く脱落し又は受渡に仕譯違等ある時は日記帳の誤謬通り元帳へ表はるゝものなるが故に記入轉寫は注意し時々實地とも突合せて記帳計算を確實ならしむべし

(注意) 取引多き會計にては日々試算表を作りて帳簿の突合せをなす故に斯の如き場合は試算帳なる帳簿を備へ之れに記入して計表の逸散を防ぐべし。試算表は金額の合計残高を併せて突合すを一般とす然れども便宜残高のみにて之を調製するもの多し銀行にて用ふる日計表は即ち此残高試算表なり。残高試算は直接に日記帳との突合せ不便なれとも營業現況の大体を知るに便なり。

(試算帳)

| 受 | | 渡 | |
|----------|----------|----------|----------|
| 残 | 計 | 計 | 残 |
| 4679750 | 500000 | 7500000 | 7000000 |
| 184000 | 11563750 | 6884000 | |
| 4949750 | 184000 | 4331250 | |
| 95000 | 9281000 | 20000 | |
| | 115000 | 96000 | 96000 |
| | 500000 | 3485000 | 2985000 |
| | 500000 | 500000 | |
| 57500 | 57500 | | |
| 115000 | 115000 | | |
| 10081000 | 22816250 | 22816250 | 10081000 |

43/5.30

- 1. 本錢
- 2. 資金
- 3. 雜費
- 4. 商店
- 5. 山口
- 6. 土崎
- 7. 仕拂
- 8. 借入金
- 9. 受取
- 10. 口手形
- 11. 千代田商會

第十九節 財産調査

財産調査 財産調査は資産負債の實地調査にて即ち廣き意味に於ける棚卸殘品調べなり。手許有金所有品は果して帳簿と符合するや否やまた受取未濟若くは未拂未濟の勘定にして未だ記帳せざるものありや否やまた賣掛金中取立見込なきものありや否やまた所有商品類の時價は記帳當時と差異あるや否やは何れも營業結算に先ち研究すべき問題なりとす。

財産取調書 故に營業結算に當り第一の準備は一々實地に就き金錢物品の減損減價取立て難き貸金の有無受取若くは仕拂未濟の勘定其他營業の身代を増減せしむるものにて記帳上未だ表はれざるものを査定すべし。次に財産取調書即ち資産負債取調書を作り商品其他の物品類は時價に見積り貸倒れとなるべき貸金は取除き現在の資産負債を一々時價にて評價して此取調書に列記し其未だ帳簿に表はれざるもの若くは帳簿と相違せるものは其要領を備考欄に記入すべし。

内譯取調書 商品の如く其取扱ふ種類多くして計算の錯雜し易きものは別に内譯取調書を作りて財産取調書には其合計を掲るを便とす。例は商家に於ける賣

殘商品取調書の如きは其一例なり。

損益取調書 財産取調書調製せば次に損失利益取調書を作り損益に關する要項と其金額を列記し差引して純損益を認むべし。蓋し財産取調書は我が身代の現在調べと同時に資産より負債（資本金を除く）を差引く時は現在の資本高を知るが故に此現在資本と開算當時の資本とを差引するときは資産の増減換言せば營業の純損益を認む依て此純損益を損益取調書により得たる結果と對照して會計を確實ならしむるを得るべし。

兩取調書ノ關係 營業の利益は資産を増し損失は資産を減ず。今甲某元入現金千圓にて商品を買入れ之を現金千五百圓にて賣捌きたりとせば現在甲某の所有現金は金千五百圓にて初めの元入現金より多きこと金五百圓也而て此金五百圓は賣買に於て利益したるものにて即ち金五百圓丈資産は増加せり。また乙某のり現金二千五百圓にて商品を仕入れ之を丙某へ金二千圓にて掛賣せりとせば此時の現在身代は丙某への貸金二千圓にて之を初めの元入金二千五百圓に比すれば金五百圓の減少なり此減少は即ち賣買の損失より來りたるものにて金五百圓

大賣買損失によりて資産を減せりとす。これによりて資産負債と損失利益とは密接なる關係あること知るべし。
 營業ニ於ケル資産負債ノ平均。斯く營業に利益あれば其大營業の資産増加し營業に損失あれば其大營業の資産は減少すと雖も此利益によりて資産増加せば此増加したる資産は資本家營業主等の手に渡すべきものなるが故に營業に於ては資本家等よりの負債もそれ大増加すべし。また之に反し營業に損失ありて資産減少せば資本も減し従て資本主等よりの負債もそれ大減少すべし。故に營業に於ける資産と負債とは平均して同額となるなりこれらは次に掲ぐる取調書を見て曉るべし。

(注意) 取調書は資産負債損失利益共それぞれ査定終れば之を帳簿に記入し計表に代ゆるに帳簿を以てすれば計表の散逸を避けまた保存上便利なりとす。

賣 殘 商 品 取 調 書

| | | | |
|---------|--------|--------|----------|
| 43/5.30 | | | |
| 宣徳花瓶 | | | |
| 無地象眼入 | 190箇 @ | 9,500 | 1805,000 |
| 新形元祿 | 400 @ | 6,000 | 2400,000 |
| 花鳥象眼入 | 3 @ | 32,000 | 96,000 |
| 花鳥並物 | 15 @ | 3,500 | 52,500 |
| 山水小 | 5 @ | 3,000 | 15,000 |
| 百合浮彫 | 100 @ | 11,000 | 1100,000 |
| | | | 5468,500 |

備考

資 産 負 債 取 調 書

| 43/5.30 | | 資 産 | 負 債 | 備 考 |
|-----------|---------------------|-----------|-----------|-----|
| 金 銭 | 手 許 有 品 高 | 46797750 | | |
| 商 品 | 山 口 商 店 同 店 ヲ 借 | 5468500 | | |
| 山 口 商 店 | 仕 拂 口 手 形 未 消 却 高 | 95000 | 96000 | |
| 仕 拂 口 手 形 | 受 取 口 手 形 受 取 未 済 高 | 57500 | 2985000 | |
| 受 取 口 手 形 | 千 代 田 商 會 同 商 會 ヲ 貸 | 115000 | | |
| 千 代 田 商 會 | | | | |
| 資 本 | 開 算 資 本 高 | 104157750 | 3081000 | |
| ※ 差 引 | 資 産 増 加 | | 7000000 | |
| | | | 334750 | |
| | | 104157750 | 104157750 | |

※印ノ一行ハ數字文字共朱書トス

損 失 利 益 取 調 書

| 43/5.30 | | 損 失 | 利 益 | 備 考 |
|---------|-------------|--------|--------|-----|
| 商 品 | 賣 上 高 | | | |
| | 残 品 高 | | | |
| | 仕 入 高 | | | |
| | 差 引 利 益 | | 518750 | |
| ※ 雜 費 | 仕 拂 高 | 184000 | | |
| | 差 引 純 利 益 ※ | 334750 | | |
| | | 518750 | 518750 | |

※印ノ一行ハ數字文字共朱書トス

賣 殘 商 品 取 調 書

| 宣徳花瓶 | | 43/6.'30 | | | 備 考 |
|--------|---------|----------|---------|--|---|
| 無地象眼入 | 140 箇 @ | 9,500 | 1330000 | | 此花鳥象眼入ノ彫工故人トナリ騰貴目下金五十圓以上ノ價格ヲ保テリ依テ金四十八圓ニ評價 |
| 新形元祿 | 400 箇 @ | 6,000 | 2400000 | | |
| 花鳥象眼入 | 1 箇 @ | 48,000 | 48000 | | |
| 花鳥並物 | 15 箇 @ | 3,500 | 52500 | | |
| 丸形籠目三番 | 75 箇 @ | 1,000 | 75000 | | |
| ヲ 四番 | 100 箇 @ | .750 | 75000 | | |
| 六角花鳥 | 38 箇 @ | 1.250 | 47500 | | |
| 山水浮彫臺附 | 150 箇 @ | 8,000 | 1200000 | | |
| | | | 5228000 | | |
| | | | | | |

資 産 負 債 取 調 書

| 43/6.'30 | | 資 産 | 負 債 | 備 考 |
|-------------|-----------|----------|----------|------------|
| 金 錢 | 手 許 有 高 | 7170750 | | |
| 商 品 | 賣 殘 品 借 | 5228000 | 96000 | |
| 土 崎 工 場 | 同 場 ヲ 却 高 | | 4585000 | |
| 仕 拂 口 手 形 | 未 消 入 金 高 | | 9000000 | |
| 擔 保 借 入 金 形 | 借 取 未 濟 高 | 632500 | | |
| 受 取 口 手 會 | 受 取 會 入 貸 | 52000 | | |
| 千 代 田 商 會 | 同 會 入 高 | 3150000 | | |
| 公 債 及 株 券 | 手 許 所 有 高 | 1000000 | | |
| 第 一 當 座 預 金 | 現 在 預 高 | 600000 | | |
| 鈴 木 商 店 | 同 店 ヲ 借 | | 112500 | |
| 志 田 甲 太 郎 | 同 人 ヲ 借 | | 62500 | |
| 木 下 商 店 | 同 店 ヲ 借 | 12000000 | | 市街變更ノ結果騰貴ス |
| 地 所 及 家 屋 | 現 在 評 價 | 29833250 | 13856000 | |

記帳及び結算 主要記帳

九〇

| | | |
|----|-------|----------|
| 資本 | 開算資本高 | 13584750 |
| 差引 | 資産増加※ | 2392500 |
| | | 29833250 |

※印ノ一行ハ數字文字共朱書トス

損失利益取調書

| | | | | |
|---------|--------|---------|---------|-----------|
| 43/6:30 | | 損失 | 利益 | 備考 |
| 商 | 賣上高 | | | |
| | 殘品高 | | | |
| | 仕入高 | 215000 | 247500 | |
| ● | 仕拂高 | | | |
| ● | 賣却高 | | | |
| ● | 所有 | | | |
| ● | 費 | | | |
| ● | 公債及株券 | | | |
| ● | 買入高 | | 60000 | |
| ● | 現在評價 | | | 市街變更ノ結果騰貴 |
| ● | 買入高 | | 2000000 | |
| ● | 株券配當 | | 300000 | |
| ● | 雑収入 | 215000 | 2607500 | |
| | ※差引純利益 | 2392500 | | |
| | | 2607500 | 2607500 | |

記帳及び結算 主要記帳

九一

第二十節 繰越及び締切結算

●結算 ●結算は普通に之を總勘定と云ふ。結算はその期間と期日を定め毎回變更せざるを定則とし營業の都合により毎月するあり年に二回するありまた年に一回するあり。若し營業の都合により臨時結算するの不得止あるときは之を臨時結算と云ひ定期結算と區別す。結算は結算の法式に則り假りにも帳簿により帳簿を結算すべきものにあらず必ず實際によりて帳簿を結算すべし。

●繰越 ●締切結算 ●繰越結算とは同帳簿を引續き用ひて記入する時に用ひ其結算の大意は元帳に損益勘定を開き損失利益に屬する勘定尻を茲に蒐め資産負債に屬する勘定尻は之を後季へ繰越すものなり。締切結算とは會計帳簿を新たにし翌期より新帳簿の記入をなさんとする時若くは全く營業を閉鎖し又は轉業せんとする場合等に多く用ひ其結算の大意は元帳に損益勘定を開きて損益に屬する勘定尻を蒐め次に殘高勘定を開きて資産負債に屬する勘定尻を集め此損益と殘高の二勘定への振替記入によりて各科目の結算をなすものなり

●繰越結算ノ順序 ●繰越結算の順序は左の如し。主要記帳の元帳第四章第十七節

に掲げたる元帳の様式を参照すべし。

- 1 元帳に損益勘定を開設すべし。
- 2 資本より順次に各科目の各合計をなすべし。
- 3 資本を除き資産負債を相當の科目へ財産取調書により資産は其渡方へ負債は其受方へ朱書にて繰越と注解して金額を記入すべし。
- 4 資本を除き損益を相當の科目へ損益取調書により損失は其渡方へ其利益は其受方へ朱書にて損益と注解して金額を記入すべし。
- 5 第四の朱書は之を損益勘定反對の方へ黒にて轉寫すべし。
- 6 損益勘定を各合計し次に差額を朱書にて資本と注解して少數の方へ記入すべし。但し純損益を資本に組入ずして配當する等の場合は資本の代りに一先繰越と注解すべし。
- 7 第六の朱書は之を資本の科目へ黒にて反對轉寫をなすべし。但し配當金等にする場合はそれに準じて取扱ふべし。
- 8 資本の科目の受渡を差引き少數の方へ朱書にて繰越と注解して金額を記入

- 9 資本より順次に各科目受渡の各總計を記入すべし。此金額は受渡とも同額なりとす。
- 10 資本より順次に締切の線を引くべし。
- 11 資本を始め其他資産負債に屬する朱書の繰越を締切線下の翌期へ黒にて反對轉寫すべし。
- 12 繰越試算表を作りて轉寫の正否を檢算すべし。
繰越試算表 繰越結算により翌期へ繰越したる反對轉寫に脱落誤記あるや否やを檢算する爲めに此繰越試算表を作るなり。此表は元帳勘定の科目に於て翌期へ反對轉寫したる繰越金額の受渡各總計を出して資産負債の平均を認め誤謬なきを證明するものにて營業の資産負債は平均すべしと云ふ法則に基きたるものなり。而て此表は次に掲ぐる締切結算の殘高勘定と其内容同じくす。

明治四十三年五月廿日 繰越試算表

| 資 産 | | 負 債 | |
|--------------|----------|-------------|----------|
| 2 金 錢 | 4679750 | 1 資 本 | 7334750 |
| 4 商 品 | 5468500 | 6 土 崎 工 場 | 96000 |
| 5 山 口 商 店 | 95000 | 7 仕 拂 口 手 形 | 2985000 |
| 10 受 取 口 手 形 | 57500 | | |
| 11 千 代 田 商 會 | 115000 | | |
| | 10415750 | | 10415750 |

- 締切結算ノ順序 締切結算の順序は左の如し主要記帳の元帳第四章第十七節に掲げたる元帳の様式を参照すべし。
- 1 元帳に損益勘定を開設すべし。
 - 2 元帳に残高勘定を開設すべし。
 - 3 資本より順次に各科目の各合計をなすべし。
 - 4 資本を除き資産負債を相當の科目へ財産取調書により資産は其渡方へ負債は其受方へ朱書にて残高と注解して金額を記入すべし。
 - 5 第四の朱書は之を残高勘定反對の方へ黒にて轉寫すべし。
 - 6 資本を除き損益を相當の科目へ損益取調書により損失は其渡方へ利益は其受方へ朱書にて損益と注解して金額を記入すべし。
 - 7 第六の朱書は之を損益勘定反對の方へ黒にて轉寫すべし。
 - 8 損益勘定を各合計し次に差額を朱にて資本と注解して少數の方へ記入すべし。但し純損益を資本に組入れず配當する場合等には一先資本の代りに残高と注解すべし。

- 9 第八の朱書は資本若くは残高勘定へ黒にて反對轉寫すべし。
 - 10 資本の科目に於ける受渡を差引き少數の方へ朱書にて残高と注解して金額を記入すべし。
 - 11 第十の朱書は之を残高勘定反對の方へ黒にて轉寫すべし。
 - 12 資本より順次各科目受渡の各總計を記入すべし。此金額は受渡とも同額にして平均すべきものなり。
 - 13 資本より順次に締切の線を引くべし。
- 朱書ノ解 簿記に於ける朱書は一定の性質を有するものなり朱書は元來記入せられたる側にあるべきものにあらずして其反對にあるべき残高を平均せしむる爲めに記入するものなり。故に朱書は必ず其勘定に於て若くは他の勘定に於て朱書と反對の方へ黒にて轉寫せられて眞正の位置に立戻らしむべきものとす。されば朱書は之を無意味に用ふべきものにあらざるなり。

第廿一節 會計報告

結算報告 會計の結算終れば全体の營業報告に添ゆるに結算報告を以てす。

(注意) 會社組織の營業に在て貸借對照表損益勘定を新聞等に公にする場合は營業の秘密あるが爲め他店との貸借は合併して諸向貸金諸向借金の如く總括の科目にて之を表はし營業の損益は單に損失と利益の總括科目の下に合併金額を表はすを例とす。

第五章 補助記帳

第廿二節 補助帳簿ノ必要

業務ノ分擔 營業を手廣くする處に在ては自然仕入掛販賣掛倉庫掛計算掛等の掛を分ちて各其業務を執らしむ。故に各掛は自然その掛の取扱ふ取引を記載する帳簿を要す。於之帳簿に主要帳簿と補助帳簿の區別を生じ補助帳簿は一方に於て各掛の扣帳たると同時に一方に於ては日記帳元帳の主要帳簿の記載を一層明瞭ならしむるに至る。

主要帳簿ト補助帳簿 日記帳元帳とは會計總括の帳簿にして此兩帳簿あれば營業百般の取引を計理するものなり故に之を主要帳簿と云ふ。補助帳簿とは一局

部の會計を明かならしむる爲め特に明細に記入するものなれば營業の單純なる所に在ては補助帳簿を要せざることもあり。而して主要帳簿に併せ補助帳簿を用ふる所にては一般に補助帳簿は明細の記入をなし主要帳簿は概括の記入をなしして重複記帳の勞力と時間を省略す。

重ナル補助帳簿 商家に重なる補助帳簿は仕入帳賣上帳商品出入帳積送品記入帳委託品記入帳等にして此外金錢出入帳手形記入帳營業費記入帳また必要なるものとす。主要帳簿は日記帳と元帳とに定まれるものなれど補助帳簿は其營業の性質取引の繁閑により一定する能はず。然れども其會計の仕組によりては金錢出入帳仕入帳賣上帳より直接に元帳へ記入して日記帳の記入を省くことあり此場合に於てはこれらの帳簿は補助帳簿にあらずして主要帳簿なり。如何となれば主要帳簿は元帳及び此帳簿に直接關係を有するを云ひ右の場合には金錢出入帳仕入賣上帳は元帳に直接關係を有すればなり。

補助帳簿ノ調製 補助帳簿は其用途により洋紙又は日本紙の綴合帳簿を用ふるも可なりまた所謂カード式のカードを用ふるも可なりまたタビユラーシステム

のテーブルを用ふるも可なりまた種々併用するも可なり要は會計取扱上及び記帳上の便宜によるのみ。

補助帳簿ト主要帳簿トノ連絡 補助帳簿は右の如く簿冊を用ひまたカード等を用ひ尙ほ其記入には仕入賣上帳の如く歴史的に記入するあり商品出入帳の如く類別的に記入するありと雖も常に其内容は元帳の該當勘定と一致するものなれば時々試算して元帳の該當勘定と其補助帳簿の金額突合せをなすべし。

第廿三節 補助帳簿ノ様式

補助帳簿ノ様式 補助帳簿の最も使用に便なるは簿冊と紙片と表の三種にして簿冊は已に廣く用ひ紙片は近年カードの名を以て表はれたるものなり而て表は未だ之を使用する處稀なれどもまた大に便利なる點ありとす。

簿冊 簿冊は即ち綴合帳簿にして記入に多分の紙面を要するものは之れに依らざるべからず。而て其記入は仕入賣上帳の如く歴史的のものあり商品出入帳の如く類別式のものありと雖も記入面廣きが故に便宜野線を利用し記入の欄を別ちて説明の文字を省き搜索に便ならしむを得。

紙片 紙片即ちカードは其使用の目的により紙質を撰み大小を考ふ。多く用ひらるゝ大さは横四寸三分縦三寸位なり故に複雑なる記入には便ならずと雖も單に受渡の金額を記入し單簡なる記事を認むるのみものには便利なりとす。殊に倉庫に於ける各品の出入を記載する如き口數の非常に多きものには最も便利なりとす。

花鳥並物 山水小 百合浮彫 丸形籠目浮

| 宣 徳 花 鳥 並 物 | | 入 | 出 | |
|-------------|----|---|----|------|
| 月 | 日 | 月 | 日 | 摘要 |
| 5 | 13 | 5 | 02 | 澤井へ |
| | | | 24 | 太田へ |
| | | | 25 | 千代田へ |
| | | | | 北村ヨリ |
| | | 5 | | |

第十四節 カード及びタビユラーシステム

カードシステム。所謂カード式簿記法の名は近年大に唱へらるゝと雖も此カード式とは寧ろ會計事務取扱の一方法にして單式複式の簿記法の外にカード式簿記なるものあるにあらざるなり。即ちカード式とは在來の簿冊に代ゆるに紙片即ちカードを用ひたる迄にて必畢簿冊を解きて片々の紙片となしたると同様のものなり。

勘定カード補助カード。カードを簿記に適用するときは之を勘定及び補助の兩種に分つ。勘定カードとは即ち主要帳簿に當り補助カードは補助帳簿なり。勘定カードは資本金錢商品の如く各カードに口取をなして恰も元帳各勘定の如く用ふ。補助カードは金錢カード商品カードの如く大別し前者は金錢出入帳に當り後者は仕入及び賣上帳に當る。而て金錢カードはまた入金と出金の二者に別ち商品カードはまた仕入と賣上若くは倉入と倉出の二者に分ち恰も銀行會社に於て用ふる入金傳票出金傳票倉入傳票倉出傳票の如くにも用ふ。

カードノ整理法。補助カードは一取引一枚なれど勘定カードは其記入の出来る

迄使用するものなれば厚き紙質を用ひ尙ほ同一勘定幾枚にもなれば番號を附しをくべし。補助カードは勘定カードへ轉寫終れば便宜の方法にて綴込み又は其他の方法によりて保存の道を講ず。勘定カードは昔時醫師の用ひたる百味箆等の如く小抽斗の多くある容器を造り一抽斗を一勘定として之に納む。

カードの得失。カードは片々たる紙片ゆへ散逸の虞あるが故に之に對する設備を要すと雖ももし各自の連絡に留意し混亂に注意し紛失なき様常に試算表によつて其正確を圖る時は元來離台自在なる紙片故に記入濟また不用となりたるものは別に之を保存し其取扱及び記入に便なり。殊に口數多き勘定假令ば貯金臺帳の如きには此カードを用ひて便なりとす。カードの得失に就ては種々の説あり兎に角之を主要帳簿に代用するは躊躇すべしと雖も補助帳簿に之を用ひば大にカードの長所を發揮して便利なりと云ふを得べし。

タビユラーシステム。此方法はカードの代りに表を用ふるものなり。故に口數少なき勘定にて單純なる營業には之を用ふるを得べし。此法は一日に一枚若くは一箇月に一枚の表を製し之を帳場に掲げをき取引の都度記入するものなれば

簿冊又は紙片の如く開閉の取扱を要せず。而て此表はまた主要計表と補助計表の二つに別ち記入計理すること主要帳簿と補助帳簿に同じ。
 タビ・ブ・ラ・ー・シ・ス・テ・ム・ノ・得・失。此方法は前に述べたる如く複雑なる取引には適用し難きも左の如く計算の正確を證明する便あるが故に或る種類の補助帳簿として用ひて便なり。

| | 一月 | 二月 | 三月 | 四月 | 五月 | 六月 | 七月 | 八月 | 九月 | 十月 | 十一月 | 十二月 | 合計 |
|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 甲 | 5- | 3- | 6- | 2- | 9- | 8- | 5- | 9- | 3- | 6- | 7- | 9- | 72- |
| 乙 | 2- | 5- | 4- | 3- | 9- | 7- | 3- | 8- | 2- | 5- | 8- | 3- | 59- |
| 丙 | 7- | 8- | 3- | 5- | 3- | 6- | 4- | 8- | 5- | 4- | 7- | 2- | 62- |
| 丁 | 8- | 2- | 8- | 4- | 2- | 6- | 7- | 8- | 4- | 6- | 8- | 1- | 46- |
| 戊 | 9- | 1- | 5- | 6- | 1- | 7- | 7- | 8- | 8- | 6- | 7- | 5- | 70- |
| | 31- | 19- | 26- | 20- | 24- | 34- | 26- | 41- | 22- | 27- | 37- | 20- | 327- |

(注意) 右は甲乙丙丁戊の五人に毎月若干の預金をなさしむとし一ヶ年の計表を作り毎月預金の度毎に記入したるものなり。而てこの五人の毎月預金合計は最後の行に記入して其預金總高を知り十二月の終りには各人の預金合計を出し此合計を總計して毎月合計の總計と符合せしむ。此方式は表のみならず普通の帳簿にも用ひて其便を見るべし。

第廿五節 主要帳簿ト補助帳簿ノ組立

主・要・帳・簿・ト・補・助・帳・簿・ノ・組・立。茲に主要帳簿に添へ補助帳簿を用ふる仕組を示さんが爲め左に石油卸小賣の營業帳簿を掲ぐ。此營業は卸賣を主とし傍ら小賣をなすものにて小賣品は卸賣品と區別すと雖も其經濟は共通なるが故に唯商品と卸賣品と小賣品の二に分ち卸賣品は單に商品と云ひ小賣品は小賣品として區別せり。小賣日々の賣上は賣上表を用ひ一日の終りに其合計を小賣帳と金錢出入帳等に記入す。營業費は口數少きゆに仕拂の度毎に營業費記入帳と金錢出入帳へ記入する方法を採用す。此に用ふる補助帳簿は金錢出入帳仕入帳賣上帳小賣帳營業費記入帳商品出入帳の六帳簿と小賣帳に附屬するに小賣表を以てす

population
people

記帳及び結算 補助記帳

10 掛 賣 松 田 竹 三

| | | | | | | | |
|----|----|----------------------------|---|---------|---------|---|---------|
| 18 | 10 | 43/10 十五日拂ニテ賣渡ス 現金受入 | 2 | 300,000 | | 受 | 300,000 |
| 27 | 15 | | 3 | 300,000 | 300,000 | — | — |

11 掛 賣 赤 石 屋 玉 吉

| | | | | | | | |
|----|----|---------------------------|---|---------|---------|---------|---------|
| 45 | 25 | 43/10 掛ニテ賣渡ス 掛金ノ内受入 | 5 | 800,000 | | 受 | 800,000 |
| 58 | 30 | | 6 | | 500,000 | 300,000 | 300,000 |
| ※ | 30 | | | 800,000 | 800,000 | | |

12 掛 賣 明 煙 社

| | | | | | | | |
|----|----|-----------------|---|---------|--|---|---------|
| 51 | 27 | 43/10 掛ニテ賣渡ス | 5 | 632,000 | | 受 | 632,000 |
|----|----|-----------------|---|---------|--|---|---------|

※ 30 残高

| | | | | | | | |
|--|--|--|--|---------|---------|--|--|
| | | | | 632,000 | 632,000 | | |
|--|--|--|--|---------|---------|--|--|

13 掛 買 明 煙 社

| | | | | | | | |
|----|----|-------------------------------|---|---------|---------|---|---------|
| 16 | 9 | 43/10 十五日拂ニテ買入ル 現金ニテ仕拂フ | 2 | 740,000 | 740,000 | 渡 | 740,000 |
| 26 | 15 | | 3 | 740,000 | 740,000 | — | — |

14 掛 買 越 後 屋 角 平

| | | | | | | | |
|----|----|--------------------------|---|-----------|-----------|---------|-----------|
| 29 | 17 | 43/10 掛ニテ買入ル 掛金ノ内拂 | 3 | 1,000,000 | 1,400,000 | 渡 | 1,400,000 |
| 57 | 30 | | 6 | 400,000 | | 400,000 | |
| ※ | 30 | | | 1,400,000 | 1,400,000 | | |

15 掛 買 虎 屋 竹 松

| | | | | | | | |
|----|----|----------------------------|---|---------|---------|---------|---------|
| 43 | 24 | 43/10 代金ノ残ヲ掛トス 掛金ノ内拂 | 5 | 100,000 | 210,000 | 渡 | 210,000 |
| 57 | 30 | | 6 | 110,000 | | 110,000 | |
| ※ | 30 | | | 210,000 | 210,000 | | |

記帳及び結算 補助記帳

(日記帳)
(1)

43/10.1

| 本日石油卸小賣業開始 (傳票番號 1) | | 資本 | 元 |
|------------------------|-----|---------|---|
| 1000000 | 2 | 1000000 | 1 |
| 現金元入 | | 金 | |
| 115000 | 3 | 115000 | 2 |
| 商品 | (2) | 金 | |
| 越後屋角平ヨリ買入仕入帳 1 | | 金 | |
| 305000 | 3 | 305000 | 2 |
| 商品 | (3) | 金 | |
| 横濱ダイエクラサースヨリ買入仕入帳 1 | | 商 | |
| 88000 | 4 | 88000 | 3 |
| 小賣品 | (4) | 商 | |
| 小賣品 = 振替賣上帳 (1) | | 商 | |
| 179250 | 2 | 179250 | 3 |
| 金 | (5) | 商 | |
| 前橋絹造 ~ 現金ニテ賣渡ス賣上帳 1 | | 金 | |
| 120000 | 5 | 120000 | 2 |
| 營業費 | (6) | 金 | |
| 開店諸費ヲ仕拂フ | | 小賣品 | |
| 6400 | 2 | 6400 | 4 |
| 金 | (7) | 小賣品 | |
| 小賣高 | | | |

| | | | |
|---------------------------|------|---------|---|
| 15450 | 2 | 15450 | 4 |
| 金 | (8) | 小賣品 | |
| 小賣高 | | 小賣品 | |
| 4230 | 2 | 4230 | 4 |
| 金 | (9) | 小賣品 | |
| 小賣高 | | 小賣品 | |
| 6450 | 2 | 6450 | 4 |
| 金 | (10) | 小賣品 | |
| 小賣高 | | 小賣品 | |
| | 5 | | |
| 本日近火 = 付休業 | 6 | | |
| | 7 | | |
| 本日モ引續キ休業 | | | |
| 24000 | 9 | 24000 | 3 |
| 掛 | (11) | 商 | |
| 賣 (三河屋万造) | | 品 | |
| 同人 ~ 十五日拂ノ約束ニテ賣渡ス 賣上帳 (1) | | | |
| 1863780 | | 1863780 | |

記帳及結算 補助記帳

117

(2)

43/10.7

| | | | | | | | |
|---------|---|------------------------|------|-----------|----|---------|--|
| 1863780 | | | | | | | |
| 2600 | 2 | 金 錢 | (12) | 小 賣 品 | 4 | 1863780 | |
| | | 小 賣 品 | | | | 2000 | |
| 31600 | 2 | 金 錢 | 8 | 商 品 | 3 | 31600 | |
| | | 赤石屋玉吉へ現金ニテ買渡ス 賣上帳 1 | (13) | | | | |
| 8000 | 4 | 小 賣 品 | (14) | 商 品 | 3 | 8000 | |
| | | 小賣品ニ振替 賣上帳 1 | | | | | |
| 8200 | 2 | 金 錢 | (15) | 小 賣 品 | 4 | 8200 | |
| | | 小 賣 高 | | | | | |
| | | | 9 | | | | |
| 740000 | 3 | 商 品 | (16) | 掛 買 (明煙社) | 13 | 740000 | |
| | | 同社ヨリ十五日拂ノ約束ニテ買入ル 仕入帳 1 | | | | | |
| 8220 | 2 | 金 錢 | (17) | 小 賣 品 | 4 | 8220 | |
| | | 小 賣 高 | | | | | |
| | | | 10 | | | | |

| | | | | | | | |
|---------|----|----------------|------|-------|---|---------|--|
| 500000 | 2 | 諸 口 | (18) | 商 品 | 3 | 800000 | |
| | | 松田竹三へ受渡ス 賣上帳 1 | | | | | |
| 300000 | 10 | 金 錢 | | | | | |
| | | 内金五百圓現金受入 | | | | | |
| 8000 | 2 | 金 掛 金 | (19) | 小 賣 品 | 4 | 8000 | |
| | | 殘金ハ來十五日拂ノ約束 | | | | | |
| | | 小 賣 高 | | | | | |
| | | | 11 | | | | |
| 8000 | 2 | 金 錢 | (20) | 小 賣 品 | 4 | 8000 | |
| | | 小 賣 高 | | | | | |
| | | | 12 | | | | |
| 8000 | 2 | 金 錢 | (21) | 小 賣 品 | 4 | 8000 | |
| | | 小 賣 高 | | | | | |
| | | | 13 | | | | |
| 8000 | 2 | 金 錢 | (22) | 小 賣 品 | 4 | 8000 | |
| | | 小 賣 高 | | | | | |
| | | | 14 | | | | |
| 19000 | 2 | 金 錢 | (23) | 小 賣 品 | 4 | 19000 | |
| | | 小 賣 高 | | | | | |
| | | | | | | | |
| 3513400 | 2 | 金 錢 | | 小 賣 品 | 4 | 3513400 | |
| | | 小 賣 高 | | | | | |

記帳及び結算

補助記帳

| | | | | | | | | |
|---------|----|---------|---------------|---------|--------|---|----|---------|
| 3513400 | 2 | 金 | 錢 | (24) | 商 | 品 | 3 | 3513400 |
| 76500 | | | 赤石屋玉吉へ現金ニテ賣渡ス | 賣上帳 1 | 商 | 品 | 3 | 76500 |
| 24000 | 4 | 小賣品 | 小賣品ニ振替 | 賣上帳 1 | 商 | 品 | 3 | 24000 |
| | | 諸口 | | (26) | 金 | 錢 | 2 | 848630 |
| 103630 | 5 | 營業費 | 左ノ諸仕拂ヲナス | | | | | |
| | | | 筆墨紙代 | 東屋大六へ | 1,500 | | | |
| | | | 本月分店賃 | 丹波屋熊二へ | 25,000 | | | |
| | | | 車賃 | 尾張屋大五郎へ | 18,730 | | | |
| | | | 廣告料 | 萬成舎へ | 53,200 | | | |
| | | | 帳簿一式代 | 奥州屋仙内へ | 5,200 | | | |
| 740000 | 13 | 掛買(明煙社) | 掛買代金ヲ仕拂ヲ | | 諸口 | | | |
| 824000 | 2 | 金 | 左ノ通請取ル | (27) | | | | |
| | | 掛賣 | (三河屋萬造) | 掛代金受取ル | | | 9 | 24000 |
| | | 掛賣 | (松田竹三) | 掛代金受取ル | | | 10 | 300000 |

| | | | | | | | | |
|---------|---|-----|--------------|-------|------------|----|---------|--------|
| 2460 | 2 | 金 | 錢 | (28) | 小賣品 | 4 | 2460 | |
| | | | 左ノ通リ現金ニテ賣渡ス | | 2,001 | | | |
| | | | 空罐 23箇 @.087 | | .460 | | | |
| | | | 空箱 4箇 | | 2,461 | | | |
| | | | 右金二圓十六錢トス | | | | | |
| | | | 本日休業 | 16 | | | | |
| | | | | 17 | | | | |
| 1400000 | 3 | 商品 | 同人ヨリ掛ニテ買入ル | (29) | 掛買 (越後屋角平) | 14 | 1400000 | |
| 17000 | 2 | 金 | 錢 | (30) | 小賣品 | 4 | 17000 | |
| 136000 | 4 | 小賣品 | 小賣品 | (31) | 商 | 品 | 3 | 136000 |
| | | | 小賣品ニ振替 | 賣上帳 1 | | | | |
| 6336990 | | | | | | | 6336990 | |

記帳及ト算算

補助記帳

| | | | | | | | |
|---------|---|-------|----------------------------|-------|--------|--------|---------|
| 6336990 | 2 | 金 | 小 賣 高 | (32) | 小 賣 品 | 4 | 6336990 |
| 25500 | 2 | 金 | 小 賣 高 | 19 | 小 賣 品 | 4 | 25500 |
| 34000 | 2 | 金 | 小 賣 高 | (33) | 小 賣 品 | 4 | 34000 |
| 2000 | 5 | 營 業 費 | 横濱行費用手代山本八助ノ分仕拂フ | (34) | 金 錢 | 2 | 2000 |
| 175000 | 2 | 金 | 手 數 料 | 20 | 6 | 175000 | |
| | | | 横濱播磨屋所有ノ星印ニ千五百總ヲ明煙社へ金一圓四十錢 | (35) | | | |
| | | | 替ニテ買渡ノ周旋ヲナシ右手數料ヲ受取ル | | | | |
| | | | 播磨屋ヨリ | 87.50 | | | |
| | | | 明煙社ヨリ | 87.50 | | | |
| 32500 | 5 | 營 業 費 | 横濱行諸費ヲ仕拂フ | (36) | 金 錢 | 2 | 32500 |
| | | | 手代給料ヲ仕拂フ | | 4,500 | | |
| 10000 | 2 | 金 | 手 數 料 | (37) | 28,000 | 4 | 10000 |
| | | | | | 小 賣 品 | 4 | |

| | | | | | | | |
|---------|---|-------|---------------------|------|-------|---|---------|
| 11000 | 2 | 金 | 小 賣 高 | 21 | 小 賣 品 | 4 | 11000 |
| 12000 | 2 | 金 | 小 賣 高 | (38) | 小 賣 品 | 4 | 12000 |
| 632000 | 2 | 金 | 小 賣 高 | 22 | 小 賣 品 | 4 | 632000 |
| | | | 三河屋萬造へ現金ニテ買渡ス 賣上帳 1 | (39) | 商 品 | 3 | |
| | | | 營業費 | 23 | 商 品 | 3 | 632000 |
| 420 | 5 | 營 業 費 | 郵便はがき切手代仕拂フ | (40) | 金 錢 | 2 | 420 |
| 5000 | 2 | 金 | 小 賣 高 | (41) | 金 錢 | 2 | 5000 |
| | | | | (42) | 小 賣 品 | 4 | |
| 7276410 | | | | | | | 7276410 |

(6)

43/10.29

| | | | | | |
|----------|----|------------|-------------|------------|----------|
| 10501960 | 2 | 金 錢 | | | 10501960 |
| 17000 | 2 | 小 賣 高 | (56) | | 71000 |
| | | | 30 | | |
| | | 諸 口 | (57) | 金 錢 | 1123100 |
| 23100 | 5 | 左ノ諸仕拂ヲナス | | | |
| | | 營業 費 | | 16.400 | |
| | | 車賃 | | .450 | |
| | | 筆墨紙代 | | 6.250 | |
| | | 進物代 | | | |
| | | 尾張屋大五郎〜 | | | |
| | | 奥州屋仙内〜 | | | |
| | | 丸八〜 | | | |
| 1000000 | 14 | 買 (越後屋角平) | 掛代金ノ内拂 | | |
| 100000 | 15 | 掛 買 (虎屋竹松) | 掛代金ノ内拂 | | |
| 500000 | 2 | 金 錢 | (58) | 掛賣 (赤石屋玉吉) | 500000 |
| | | 同人掛金ノ内受取ル | | | |
| 19400 | 2 | 金 錢 | (59) | 小 賣 品 | 19400 |
| | | 左ノ通現金ニテ賣渡ス | | | |
| | | 空 罐 | 200箇 @ .085 | 17.000 | |
| | | 空 箱 | 24箇 @ .100 | 2.400 | |

| | | | | | |
|----------|---|-------|------|-------|----------|
| 20400 | 2 | 金 錢 | (60) | 小 賣 品 | 20400 |
| | | 小 賣 高 | | | |
| 12181860 | | | | | 12181860 |

記帳及ビ結算 補助記帳

(金銭出入帳)

(1)

43/10.1

| 月日 | 入 | 出 | 残 |
|-------|----------|---------|---------|
| 10 1 | 1000 000 | | |
| " " | | 115 000 | |
| " " | | 305 000 | |
| " " | 179 250 | | |
| " " | | 120 000 | |
| " " | 6 400 | | 645 650 |
| " " | 15 450 | | 661 100 |
| " " | 4 230 | | 665 330 |
| " " | 6 450 | | 671 780 |
| " " | 2 600 | | 674 380 |
| " " | 31 600 | | 714 180 |
| " " | 8 200 | | 722 400 |
| " " | 8 220 | | |
| 10 10 | 500 000 | | |

現金元入
 越後屋角平へ仕拂
 ダイコクプラザギースへ仕拂
 前橋網造ヨリ受取ル
 開店諸費ヲ仕拂フ
 費品 賣上高
 費品 賣上高
 費品 賣上高
 費品 賣上高
 費品 賣上高
 費品 賣上高
 費品 賣上高
 費品 賣上高
 赤石屋玉吉ヨリ受取ル
 賣上高
 松田竹三ヨリ内金入

| | | | | | |
|-----|----------|--------------|----------|----------|----------|
| " " | 小 賣品 | 賣上高 | 8 000 | | 1230 400 |
| 11 | " | " | 8 000 | | 1238 400 |
| 12 | " | " | 8 000 | | 1246 400 |
| 13 | " | " | 8 000 | | 1254 400 |
| 14 | " | " | 19 000 | | 1273 400 |
| 15 | 商 業 費 | 赤石屋玉吉ヨリ受取ル | 76 500 | 1 500 | |
| " " | " | 夷屋大六へ 筆墨紙代 | | 25 000 | |
| " " | " | 丹波屋熊二へ 本月分店賃 | | 18 730 | |
| " " | " | 尾張屋大五郎へ 車 賃 | | 53 200 | |
| " " | " | 萬成舎へ 廣 告 料 | | 5 200 | |
| " " | " | 奥州屋仙内へ 帳簿一式代 | | 740 000 | |
| " " | 掛 掛 | 掛金ヲ仕拂フ | | | |
| " " | 買 (明煙社) | 掛金ヲ受取ル | 24 000 | | |
| " " | 買(三河屋万造) | 掛金ヲ受取ル | 300 000 | | |
| " " | 賣 (松田竹三) | " | | | |
| " " | 小 賣品 | 空罐23箇@087 | | 2 001 | |
| " " | " | 空 箱 4 | 2 460 | | |
| " " | " | 右賣却代金 | | .460 | |
| | | | 2216 360 | 1383 630 | 832 730 |

(2)へ繰越

記帳及び結算 補助記帳

一一一

(3)

43/10:30

11111

| | | | | | | |
|------|-----|---------------|-------|---------|---------|--------|
| 1030 | 小賣品 | 空罐 200箇@.085 | 17.00 | 4209860 | 3570200 | |
| | | 空箱 24 (@.100) | 2,400 | 19400 | | |
| | | 右賣却代 | | 20400 | | |
| " | 小賣品 | 小賣高 | | 4249660 | 3570200 | 679460 |
| ※ | 繰越 | 手許殘金 | | 4249660 | 4249660 | |
| 30 | | | | | | |

(仕入帳)

(1)

43/10:1

| | | | | | | |
|------|------------|----------|-------|---------|--|----------|
| 101 | 越後屋角平ヨリ | 現金ニテ | | 31,000 | | |
| | 星月印 | 20 罐 @ | 1,550 | 23,250 | | |
| | 花印 | 15 " @ | 1,550 | 38,250 | | |
| | 花印 | 25 " @ | 1,530 | 92,500 | | 115,000 |
| 101 | ダイコクガラスヨリ | 現金ニテ | | | | |
| | 星印 | 15 罐 @ | 1,500 | 280,000 | | |
| | 右持込諸費用現金仕拂 | 200 罐 @ | 1,400 | 25,000 | | 305,000 |
| 109 | 明煙社ヨリ | 十五日拂ニテ | | | | |
| | 星印 | 500 罐 @ | 1,480 | | | 740,000 |
| 1017 | 越後屋角平ヨリ | 掛ニテ | | | | |
| | 星印 | 1000 罐 @ | 1,400 | | | 1400,000 |
| 1024 | 虎屋竹松ヨリ | 現金及ビ掛ニテ | | | | |
| | 花印 | 500 罐 @ | 1,420 | | | 710,000 |
| | | | | | | 3270,000 |

(賣上帳)
(1)

43/10:

| | | | | | | | | |
|----|----|--------|-----|---|------------|-------|---------|--|
| 10 | 1 | 小賣品へ印造 | 55 | 罐 | 振替 | 1,600 | 88,000 | |
| " | " | 星橋絹造 | 100 | 罐 | 現金ニテ | 1,560 | 179,250 | |
| " | " | 星越 | 15 | 罐 | ① | 1,550 | 156,000 | |
| " | 7 | 三河屋萬造 | 15 | 罐 | 十五日拂ニテ | 1,600 | 24,000 | |
| " | 8 | 赤石屋玉吉 | 20 | 罐 | 現金ニテ | 1,580 | 31,600 | |
| " | " | 小賣品へ印 | 5 | 罐 | 振替 | 1,600 | 8,000 | |
| " | 10 | 松田竹三 | 500 | 罐 | 現金及び十五日拂ニテ | 1,600 | 800,000 | |
| " | 15 | 星赤石屋玉吉 | 50 | 罐 | 現金ニテ | 1,530 | 76,500 | |
| " | " | 小賣品へ印 | 15 | 罐 | 振替 | 1,600 | 24,000 | |
| | | | | | | | 23,250 | |

| | | | | | | | | |
|----|----|--------|-----|---|------|--------|-----------|--|
| 10 | 17 | 小賣品へ印 | 85 | 罐 | 振替 | 16,000 | 136,000 | |
| " | 23 | 三河屋萬造 | 400 | 罐 | 現金ニテ | 1,580 | 632,000 | |
| " | 25 | 星赤石屋玉吉 | 500 | 罐 | 掛ニテ | 1,600 | 800,000 | |
| " | 27 | 明煙社へ | 400 | 罐 | 掛ニテ | 1,580 | 632,000 | |
| | | | | | | | 34,313.50 | |

記帳及び結算 補助記帳

| | | | | | |
|-------|--------------------|--------|---------|---------|---------|
| 10.25 | 小賣合計 | | 256,000 | 229,510 | |
| 26 | " | | | 5,000 | |
| 27 | " | | | 15,000 | |
| 28 | " | | | 10,000 | |
| 29 | " | | | 15,000 | |
| 30 | " | | | 17,000 | |
| | 現金ニテ買渡ス | | | 20,400 | |
| | 空 罐 120箇 @ .085 | 10,200 | | | |
| | 空 箱 70箇 | 9,200 | | | |
| | 残 品 星印 30罐 @ 1,600 | | 256,000 | 19,400 | |
| | | | | 331,310 | |
| | | | 256,000 | 48,000 | |
| | | | 256,000 | 379,310 | |
| | | | 123,310 | | |
| | | | 379,310 | 379,310 | |
| | | | 379,310 | | |
| | | | | | 379,310 |

差引 小賣純利益金

●小賣表 茲に掲げたる石油の小賣部は左に示す小賣表を毎日作りて小賣の度毎に記入し其日の終に合計を出して之を賣溜と突合せ然る後小賣帳と金銭出入帳へ記入すべし。

| | | |
|---|------------|----|
| ○ | 明治43年10月1日 | |
| ○ | 品名 星印 | |
| | 相場一升二十銭 | |
| | 掛 賣 | 現金 |
| | | 20 |
| | | 10 |
| | | 10 |
| | | 40 |
| | | 10 |
| | | 10 |
| | | 20 |
| | | 30 |
| | | 60 |
| | | 30 |
| | | 50 |
| | | 10 |
| | | 20 |
| | | 10 |
| | | 10 |
| | | 10 |
| | | 10 |
| | | 10 |
| | | 10 |
| | | 20 |
| | | 30 |
| | | 40 |
| | | 6 |

●小賣表ノ整理 小賣表は毎日帳合終れば之を状挟みの類に挟み置き一ヶ月の末日に至れば其月の分を合計して別に一枚の合計表を上表紙とし綴込み更に之を小賣帳と突合せ而て後保存しをくべし。

(注意) 現金賣は先づ小賣表に金高を記入して後現金は之を容器へ入るべし決して現金を入れて後記入すべからず。掛賣の記入は例ば秋山に金五十銭の掛賣なれば「秋山」150」と認むるなり。

(營業費記入帳)

(1)

43/10.1

| 日 | 金額 | 日計 |
|----|---------|---------|
| 10 | 120,000 | 120,000 |
| 1 | 1,500 | |
| 15 | 25,000 | |
| " | 18,730 | |
| " | 5,200 | |
| " | 5,200 | 103,630 |
| " | 2,000 | 2,000 |
| 19 | 4,500 | |
| 20 | 28,000 | 32,500 |
| " | 450 | 420 |
| 23 | 1,500 | 1,500 |
| 25 | 21,200 | 21,200 |
| 28 | 16,100 | |
| 30 | 450 | |
| " | 6,250 | 23,100 |

開店諸費ヲ仕拂フ
 筆墨紙代 夷屋大六へ
 本月分屋賃 丹波屋熊二へ
 車賃 尾張屋大五郎へ
 廣告料 萬成舎へ
 帳簿一式代 奥州屋仙内へ
 横濱行費用 山本八助へ
 " 田村喜七及ビ森川増太郎へ
 手代給料拂 郵便はがき切手代
 電倉庫借入料 尾張屋大五郎へ
 車賃 奥州屋仙内へ
 筆紙墨代 九八へ
 進物

| | |
|--|--|
| | |
| | |
| | |

| | |
|---------|---------|
| 304,350 | 304,350 |
| | |
| | |

(注意) 營業費の仕拂日々多き所は毎朝小出金を假出し營業費仕拂の度に此帳簿に記入し一日の終りに合計したる金高を一口として小出金を消却する方法を取るべし。即ち毎日の受渡仕譯左の如し

| | | | | |
|-----------|-----|--------|----|--------|
| 小出金を出したる時 | 假渡 | 五〇,〇〇〇 | 金錢 | 五〇,〇〇〇 |
| 營業費の日計 | 營業費 | 二五,五〇〇 | 假渡 | 二五,五〇〇 |
| 殘金を戻入たる時 | 金錢 | 二四,五〇〇 | 假渡 | 二四,五〇〇 |

(商品出入帳)

| 43 月 日 | 賣 | 買 | 先 | 星 | | 月 | | 花 | | 總 | | 印 | |
|--------------|-------|------|-------|------|-----|----|----|-----|----|-----|---|----|---|
| | | | | 入 | 出 | 入 | 出 | 入 | 出 | 入 | 出 | 入 | 出 |
| 10 | 越後屋 | ダイコク | グアサース | 20 | | 15 | | 25 | | 15 | | 15 | |
| " | 前橋精造 | | | 200 | | | | | | | | 15 | |
| " | 小賣部 | | | | 100 | | | | | | | | |
| " | 三河屋萬造 | | | | 55 | | 15 | | 20 | 5 | | | |
| 7 | 赤石屋玉吉 | | | | | | | | | | | | |
| " | 小賣部 | | | 500 | | | | | | | | | |
| " | 明煙社 | | | | 500 | | | | | | | | |
| 9 | 松田竹三 | | | | 50 | | | | | | | | |
| 10 | 赤石屋玉吉 | | | | 15 | | | | | | | | |
| " | 小賣部 | | | | | | | | | | | | |
| " | 越後屋 | | | | 15 | | | | | | | | |
| 17 | 小賣部 | | | | | | | | | | | | |
| " | 三河屋萬造 | | | | 85 | | | | | | | | |
| 23 | 三河屋萬造 | | | | 400 | | | | | | | | |
| 24 | 虎屋竹松 | | | | | | | 500 | | 500 | | | |
| | | | | 1000 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-------|------|------|----|----|-----|-----|-----|----|----|--|--|--|
| 25 | 赤石屋玉吉 | 500 | 15 | | | 400 | 100 | | | | | | |
| 27 | 明煙社 | 1720 | 1705 | 15 | 15 | 525 | 425 | 100 | 15 | 15 | | | |
| ※30 | 残高 | | 15 | | 15 | 525 | 525 | | 15 | 15 | | | |
| | | 1720 | 15 | | 15 | | | | | | | | |

(注意) 右商品出入帳は簿冊となしたれど毎月一枚の表として記入し順次に綴込み追て一冊の帳簿とするも可なり。然れども品数の非常に多き倉庫の會計なればカード式によりて記入整理するを便とす。尙ほ商品の種類によりては倉庫を別するあり此場合に於ては貯藏所別に商品出入帳を備ふること勿論なり。

第六章 勘定科目

第廿六節 勘定科目ノ分類

勘定科目 勘定とは性質上の分類にして例へば人の勘定物の勘定事の勘定の如くまた資産負債に属する勘定損失利益に属する勘定の如く區別す。科目とは記帳上の分類にして例へば資本の科目商品の科目と云ふが如し。科目は記帳上の分類なるが故に或科目は物に属する勘定と事に属する勘定を含むことあり例ば綜合仕譯に於ける商品の如き其一例なり。

科目ノ設定 科目は營業の種類により千差萬別なれど營業の性質區域を考ふるときは其概括科目を定むることを得。故に營業は其性質區域により全體の會計を整理する爲め其概括科目を豫定し之れにより計理すべし。概括科目とは一般にあるべきものにて同性質のものは之を綜理し得べき科目を云ふ例へば商品の如く受取口又は仕拂口手形の如く假渡又は假受の如く仕拂未済又は受取未済の如くまた未決算の如きものと云ふ。此概括科目を元帳の勘定科目とするは一般

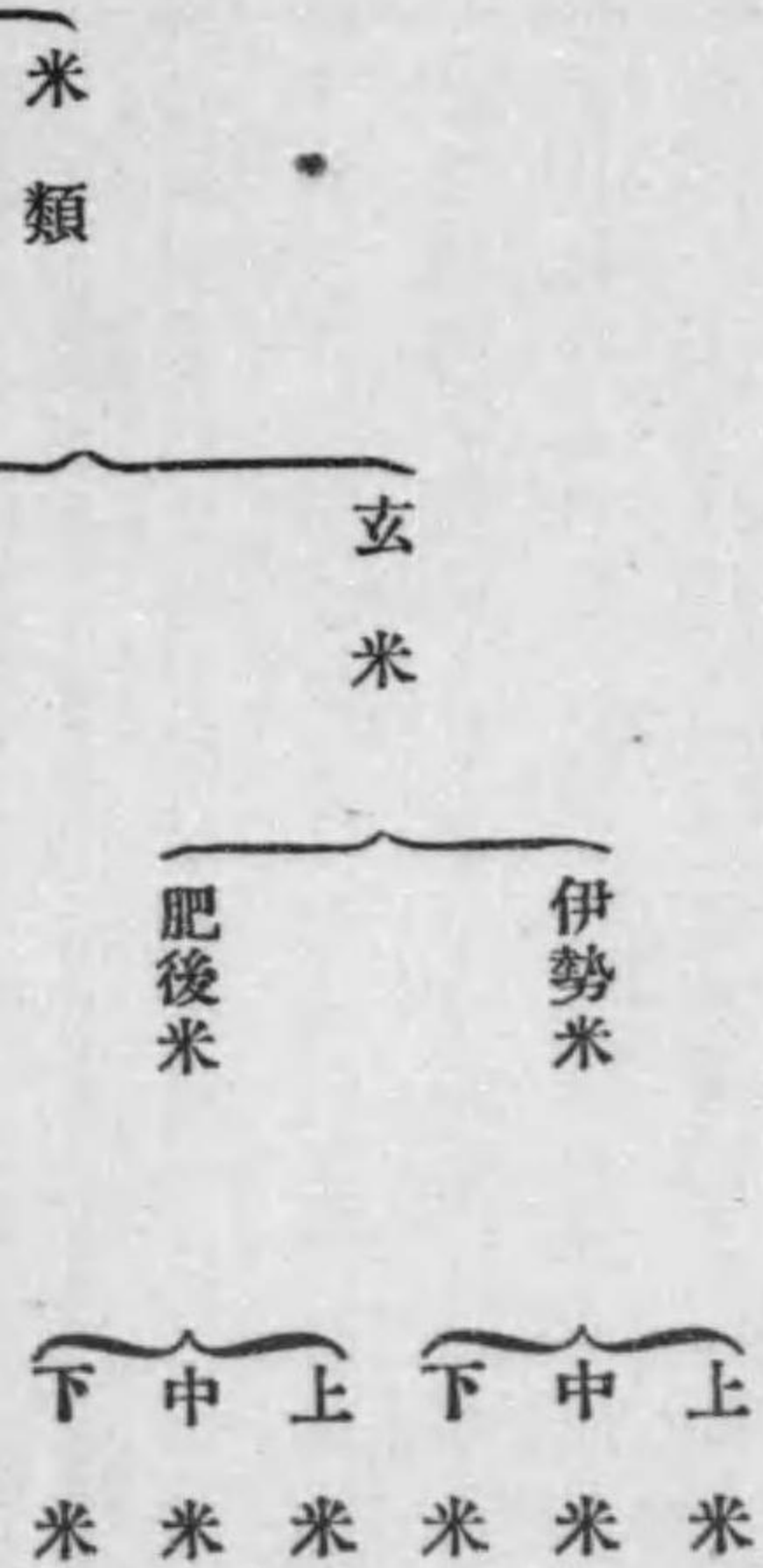
單純なる營業に於て用ゆる方法なれど其營業や、錯雜する所に在ては此概括科目の内譯となるべき科目を以て元帳科目とすることもありとす。然れども元帳勘定の一科目とする以上は其取引時々起るべきものならざるべからずかの不渡手形を獨立の一科目とするが如きは大に當を得ざるものなり。

大中小細科目 大科目とは總括科目にして其内譯を中科目と云ひ中科目の内譯を小科目と云ひ小科目の内譯を細科目と云ふ。若し商品を大科目とせば其中小科目は左の如し。

(大科目) (中科目) (小科目) (細科目) (再細科目)

記帳及び結算

勘定科目





科目ノ適用 右の如く内譯に内譯して分類すと雖も若し玄白の區別を要せざる時は米類の下に伊勢米、肥後米、内國一等白米、内國二等白米、内國三等白米、外國一等白米、外國二等白米、外國三等白米の内譯科目を用ふるも可なり要は唯其會計上の仕組によりて之を定む。然れども科目は適宜之を分類せば先づ其細科目の内に含まるゝものを定めて次に小科目次に中科目次に大科目に及びて其性質と範圍を明白ならしむべし。決して其時其人の勝手により分類すべきものにあらざる

なり。

科目ハ會計ノ骨髄 完全なる會計は此科目の適切なる分類にあり。故に其營業の仕組を考へ科目を設定せば漫りに變更すべからず常に一般に通じ一定の名稱を用ひ會計の統一を圖るべし。會計は現在の爲めのみならず未來の爲めに統計材料を與ふるものなれば萬一科目の變更等あれば他日の調査に差支なき様其道筋を明かにしをくべし。

科目ノ名稱 科目は其物と人と事に關するを論せず都て科目其ものゝ本體を以て命令すべきものとす。然るに其命名區々にして名實を異にし爲めに其仕譯に困難を感せしむること多し。科目の受渡は其科目を本位とするが故に其受渡の本體を以て科目名とし其實と伴はしむべきに或は預り金、借入金、假受、仕拂口、形掛買、仕拂未濟等の如く何れも帳場より見たる名稱を用ひ或は會社に於ける未拂株金の如く株主より見たる名稱を云ふ。然れども其慣用の久しき今急に之を改む能はざるが故に在來の名稱を用ふと雖も可成一定しよし其本體より名づけざるとする時はせめて全體を帳場より見たる名稱にするを可とす。

科目ニ於ケル名ト實 科目に借入金の如くまた運賃の如きあり此名稱を以て受渡したる金銭物品其ものの如く考へらるれどこれ前に述べたる名實を異にせるより來る誤解にして今日慣用の名稱は金銭物品と之によりて生じたる債權債務又は損益の原因とは區別するを要す。例へば借入金は其借入たる金品を指すにあらずして之によりて生じたる我が債務を意味し運賃の仕拂は運送と云ふ損益の原因を受けたるにより其報酬として金品を仕拂ふなり。されば借入金をしたる場合には其渡方（即ち其人の貸）に記入し運賃を仕拂ひたる場合には其受方（即ち其事の損）に記入せらるなりとす。

第廿七節 金 錢

金錢 金錢とは目下我國に於て通用する貨幣を云ふまた日本銀行發行の兌換券も商家に於ては金錢の内に編入す。外國貨幣又は徳川時代の舊貨幣は貨幣の名ありと雖も今日交換の媒介物にあらざるが故に金錢にあらずして普通の物品に取扱ふべきものとす。
小切手振出手形類 銀行の預金證書たる振出手形は何時にても入用次第拂戻さ

る約束のものなり。送金手形は銀行振出の手形にて所持人拂のものなり。共に紙幣同様の如くなれば取扱上普通の金錢と區別せざるを一般とす。小切手は簡人の振出にして其支拂人は銀行なるが故に其所有者は金錢同様に取扱ふを普通の方法とす。一覽拂爲替手形満期手形の如きは直に金錢に引替へらるゝものなるが故にまた金錢同様に取扱ふを一般の例とするが如し
引替未済手形 右振出手形送金手形小切手一覽拂爲替手形満期手形は直に金錢に引替へらるゝものなれば一般に金錢の内に編入して計算すと雖も其性質異なるが故に正當に之を計理するときは引替未済手形として取扱ふを可とす。然れども便宜上金錢の大科目の下に現金（兌換銀行券を含む）及び引替未済手形の内譯科目を設け計理するも可なり。

第廿八節 土地家屋器具類

不動産 土地家屋及び之に定著するものを總括して不動産と云ふ。土地家屋の分離して計算するものは其科目を土地と家屋に別ち分離して計算し難きものは單に不動産の科目にて計理し尙ほ都合によりては不動産及什器の科目を用ひ不

動産と什器とを合併して計理することあり。

内譯ノ科目 其營業の規模大なる處にありては土地に山林宅地の如く營業用住居用の如き分類をなし家屋に倉庫事務所の如くまた營業用住居用の如く分類をなすあり。得意先の株老舗の株の如きは土地家屋と分離して計理し難き場合多し斯の如きは不得止其重なる科目即ち土地若くは家屋にて計理す。

不動産ノ消却 土地は其性質として寧ろ年々地價騰貴すべき傾きありと雖も家屋類は年々の使用によりて其價は減少すべきものなり。故にたとへ自分が所有する建物類にても月々其使用に對して損料を出すこと恰も他人の家屋を借入れ使用すると同様にすべし。

消却ノ金額 然らば如何なる標準によりて其損料を計算すべきかと云ふに其買入代金は勿論其後の大修繕費にこれらの利子等を加へこれを其命數によりて除したるものなるべし。而て其割合は月々平均の額にて定むるありまた年を追ひ損傷の度加ふるに従ひ漸次損料を高めて消却するも可なりまた毎月又は毎年の利益の何分とかを損料とするも場合によりては差支なし。

消却ノ計理 世間にては往々不動産の消却に注意せざる者ありと雖も前述の次第なるが故に毎月末に

營業費

三五、〇〇〇

家屋

三五、〇〇〇

の如く仕譯記帳し家屋の科目は受渡を差引きしたる金額を以て現在評價とし營業費の科目は其月の經費を其月に編入して計算すべし。

家屋修繕費 普通の修繕費は家屋の代價を増加するものにあらず故に家屋の科目に加へずして營業費に組入るべし。大修繕又は改良費等は家屋の代價を増加せしむるを以て通例とするが故に家屋の科目とし受方へ組入るべし。右修繕に就ては計理法種々あれども最も單簡にして普通なるは茲に述べたる方法なりとす。

器具類 器具類は之を別ちて營業用と住居用に區別しまた便宜家屋と合併して家屋及び器具とし一科目となすことあり。器具類は家屋と同じく長く使用し得べしと雖も年々損傷して終に廢物となるもの多し故に家屋の取扱と同様にすべし。但し茲に云ふ器具類は雜費又は營業費等の支出として買入れたるものにあ

一般とす。

商品の分類 商品は一括して單に商品を以て大科目とし若くは類別して幾箇の大科目を設け内譯は補助帳簿にて整理するも可なり。また品數少き商家にては各品毎に類別して元帳の科目とするも可なり。此外商品は之を卸賣品と小賣品に區別しまた手許商品倉庫商品廻送品未着品積送品月掛販賣品等の如く區別し各自の計算を明かならしむ。

卸小賣品 卸賣が小賣を兼業とする場合には別に其區別を立てず商品の一科目にて計理するありと雖も其小賣と卸賣との利益混同するが故に適當なる方法にあらず。故に一般に卸賣品と小賣品とは之を區別し卸賣品より小賣品に振替ゆるときは

小賣品

五〇〇、〇〇〇

商品

五〇〇、〇〇〇

の如く振替勘定をなし商品の科目は卸賣買を計理し小賣品の科目は小賣取引を計理す。

倉庫商品 我商品を倉庫會社へ寄託し倉庫證券となすときは一般に倉庫證券は

商品同様とし記帳上振替勘定をなさず。故に倉庫證券にて賣る時は商品を賣ると同様にまた倉庫證券にて買入れたる時も現物の商品を買入れたると同様に取扱ふ。然れども手許にあるものと區別する爲め在庫の商品は倉庫商品の科目によりて區別するを可とす殊に倉庫商品は多く借金擔保品となること多きが故に區別するを適當の計理法とす。

鐵道貨物引換證券 船貨證券 これらの證券はまた倉庫證券と同様に取扱ふものありと雖もまた大に注意すべきことなり。商品を引換證券船貨證券等にて買入るは之れ多くは未着品の買入にして手許の商品と同様にあらず從て此等の證券にて賣渡す時は未着品の賣渡にして手許の商品と同様にあらず。

未着品 賣主の土地にて買取りたる商品已に積出濟となりたるも未だ我手に入らざる間は未着品なり。今商品を積出地渡にて買取りたる時は

未着品

五〇〇、〇〇〇

甲某

五〇〇、〇〇〇

の如く計理し其品到着したる時は左の如く仕譯すべし。

商品

五〇〇、〇〇〇

未着品

五〇〇、〇〇〇

廻送品 先方渡の約にて賣りたる商品を積送りたるときは之を手許商品と區別し。

廻送品

一〇〇〇、〇〇〇 商品 一〇〇〇、〇〇〇

の如く仕譯け其品先方に安着したる時は左の仕譯して買主乙某の借金となすべし。

乙某

一〇〇〇、〇〇〇 廻送品 一〇〇〇、〇〇〇

積送品 積送品とは委託販賣積送品のことにして即ち我手許にて賣捌くものと問屋の手にて販賣せしむるものとを區別する爲め設定したる科目なり。一般に行はるゝ計理法は之を積送りたる時

長崎向積送品

二五〇〇、〇〇〇 商品 二五〇〇、〇〇〇

とし右運賃等を現金にて仕拂へば

長崎向積送品

二五〇〇、〇〇〇 金銭 二五〇〇、〇〇〇

とし追而右積送品賣上濟となり仕切到着する時は左の如し。

問屋名

三一〇〇、〇〇〇 長崎向積送品三一〇〇、〇〇〇

尙追て問屋より右手取金を送金手形にて送來る（但し送金手形を即日取付べきに付き現金とす。

金銭

三一〇〇、〇〇〇 問屋名 三一〇〇、〇〇〇

委託品 積送品を受取りたる問屋より云ふ時其物品は即ち委託品なり。問屋が委託品を受けたる時は一種の債務を生じたるものなれど之を金銭に見積り難き故に簿記計算に入るゝ能はず。故に此委託品に關し運賃の立替をなす等の時より其計算は始まるものとす。其委託品に關し持込費用を現金にて仕拂ひたる時は左の如し。

荷主名

五〇、〇〇〇 金銭 五〇、〇〇〇

委託品を甲某へ掛にて賣渡したる時は左の如し。

甲某

三三〇〇、〇〇〇 荷主名 三三〇〇、〇〇〇

賣上濟に付仕切狀を送付す。賣上手數料は左の如し。

荷主名

一五〇、〇〇〇 手數料 一五〇、〇〇〇

斯く委託品を販賣したる時は荷主を渡方とし立替金をなしたる時は荷主を受方

とするが故に立替賣捌の都度一々荷主に通知し荷主も之に對して記帳計理するを可とす。荷主が仕切狀を受取りたる時併せて記帳するは本來の方法にわらずして唯便法なりとす。

(注意) 一般委託品に關する計理は立替金及び賣上代金は全部賣捌濟まで荷主の名とせず某委託品と云ふ科目にて計理し賣上仕切狀を送付する時此委託品より其殘金を荷主の科目に振替ゆ。委託品に就ての立替賣捌は荷主との間に貸借の關係生ずるものなれば荷主名を以て計理するを穩當なりとす。

積送品委託品ノ科目 之を總括科目としては單に積送品及び委託品を用ふと雖も此種取引の多き會計にては内譯科目として積送品は仕向地名を冠しまた同地に幾度も積送る處にては第一第二の番號を付して區別したるものを用ひ委託品は荷主の名を冠しまた第一第二の番號を附して其前後を區別したる名稱を用ふべし。

約定品 來る何日迄に現品と代金を引替ゆべしとて豫め賣買の約定をなす

もの之を約定品と云ふ。定期賣買の如きは即ち此種類に屬しまた本年十二月迄毎月何程宛何圓替にて賣渡すと云ふ供給契約もまた此種類に屬す。此契約による物品を賣約品又は引渡口約定品、買約品又は受取口約定品の如く分類す即ち賣手より云へば賣約品にして買手より云ふときは買約品なり。

賣約品 賣約品に關する受渡は左の如し。
賣買の豫約をなしたる時 賣約定 五〇〇、 賣約品 五〇〇、
商品を引渡したる時 賣約品 五〇〇、 商 品 五〇〇、
甲 某 五〇〇、 賣約定 五〇〇、

(注意) 右賣約定をなしたる時甲某對賣約品とし恰も約定と同時に甲某の債務を認むるものありと雖も約定品は概ね代金は物品引渡と同時に仕拂ふべきものなれば直に甲某を受方とするは穩當にわらず。

買約品 賣約品と反對に仕譯せらるゝものにて左の如し。
賣買の豫約をなしたる時 買約品 五〇〇、 買約定 五〇〇、
若し手附金を入れたる時は 假渡 五〇、 金 錢 五〇、

商品を受取りたる時

| | | | |
|-----|------|-----|-----|
| 商品 | 五〇〇、 | 買約品 | 五〇〇 |
| 買約定 | 五〇〇、 | 乙某 | 五〇〇 |

若し手附金を代金に振替ゆれば 乙 某 五〇、 假 渡 五〇

右買約品を受渡期日前に他人に轉賣して賣買差金を利益とすとせば左の如し。

| | | | |
|-----|---------|------|---------|
| 買約定 | 五〇〇、〇〇〇 | 買約品 | 五〇〇、〇〇〇 |
| 金 錢 | 一〇〇、〇〇〇 | 賣買損益 | 一〇〇、〇〇〇 |

買附委託品 買附委託とは或物品の買附を問屋へ依頼することにて問屋より云ふ時は其物品を買附委託品と唱ふ。買附委託に就きては種々の計理法ありと雖も單純なるものは左の如し。

問屋 (乙) の帳簿

買附注文者 (甲) の帳簿

甲は買附注文をなし乙に金百圓を送る

金錢 一〇〇、 委託買附品一〇〇、 假渡買付注文品一〇〇、 金錢 一〇〇、

乙は甲よりの委託品を買入れ外に諸係り金五十圓也仕拂ふ

委託買附品 二〇〇〇、 金錢 二〇〇〇

委託買付品 五〇 金錢 五〇

乙は甲へ注文品を送付す (但し積出地渡)。右積送費用金五十圓也現金にて仕拂ふ。手数料は金五十圓也

委託買付品一九五〇 (假渡買附注文品) 一〇〇、

甲 二〇五〇、 金錢 五〇 未着品二一五〇、

手數料 五〇 乙問屋 二一五〇、

甲は注文品を請取る。持込費用現金十圓也

| | | | |
|----|-------|-----|-------|
| 商品 | 二一六〇、 | 未着品 | 二一五〇、 |
| 金錢 | 一〇、 | | |

甲は乙に殘金を仕拂ふ

金錢 二〇五〇、 甲 二〇五〇 乙問屋二〇五〇、 金錢 二〇五〇

買附委託品ノ内譯科目 問屋營業者は買附委託品を以て總括科目とし其内譯は人名別を以てすべし。前書約定品もまた買約定と賣約定は人名別を以て再別し買約品と賣約品は品名別に内譯する等その會計の仕組に應じて便宜に之を取扱

ふべし。

月賦商品 在來月賦にて賣買する者は概ね商品は賣渡して其代金を月に何程宛と定め受取るものなり。故に其仕譯は左の如くにて單純なり

賣渡したる時

掛賣(甲)一五〇、

商品 一五〇、

月賦入金の時

金錢 五〇、

掛賣(甲) 五〇、

”

金錢 五〇、

掛賣(甲) 五〇、

”

金錢 五〇、

掛賣(甲) 五〇、

月掛買取法 近年行はるゝ一種の月賦賣買法は此契約により買主は物品を受け之を使用するも毎月の掛金が代金額となる迄は借物なり其物品が我所有物となるは月掛皆済の時にありとす。故に在來の月賦は物品を賣渡して貸金とするものなるに近來の月掛は物品を貸渡して後賣渡す方法なり。今左に此月掛買取法に關する計理を示さん。

月掛にて商品を渡したる時

月賦商品一五〇

商品 一五〇

毎月掛金の入りたる時

金錢 五〇

月掛金 五〇

月掛皆済となりたる時

月掛金 一五〇、

月賦商品 一五〇、

第三十一節 損益ノ諸勘定

損益ノ諸勘定 損益に關する科目は種々あり商品類は差引損益を示すことあり不動産類また差引損益を示すことありと雖も此外利金、割引料、運賃、保険料、手数料、倉庫料、廣告料、家賃、地代、給料、郵便電信料、電話料、諸印刷物費、筆紙墨費等は主として損益に屬する科目なり。

營業費ノ分類 以上の諸費用之を合して單に營業費の科目とし之を計理するありまた各目に科目を設け區別して計算するあり。要は唯其會計組織の如何によりて之を定む。かの運賃、保険料等は之を關係商品の原價とし商品の科目にて計理する方法もありて由來損益に關する勘定は錯雜を極む故に其性質を吟味して正當なる計理方法を講ずべし。

科目分類ノ心得 營業費を分類せんと欲せば其費用の直接費と間接費を區別し總經費と特別費を區別し、經常費と臨時費を區別し、營業本來の損益と否とを區別し、戻入れあるべき費用と全くの損益とを區別し、現在營業の經費と永久に渉る經

費を區別し、營業費用と家内費用とを區別し、其月の經費に入るべきものと否とを考へ適宜類別すべし。

直接費用ト間接費用ト 其營業に直接のものは直接費用にして間接のものは間接費用なり。故に此點より云へば經常費は直接にして臨時費は間接なり營業本來の損益は直接にして否らざるものは間接なり營業の經費は直接にして永久に渉るものは間接なり又商品買入に要したる運賃手数料も販賣に要したる費用も直接にして一般の店費は間接なり。

商品ニ關スル直間接費 商品賣買に關係する直接費用に就ては買入費用は之を商品の元價に組入れ賣捌費用は別勘定として損益の科目にし而て間接費用は之を適宜に分類するもの多し。また買入代金其他買入費用を收入勘定とし賣捌費を支出勘定として取扱ふもあれど此方法は商家の會計には便ならず。商店に於ては寧ろ前者の方法を参考とするを可とす。

總係費ト特別費ト 營業全體に渉るものは總係費にして特に一部に要する費用は特別費なり。例へば支配人の給料は總係費にして販賣部員の給料は特別費なり

此區別は營業現在の有様に就て云ひたるものにて總係費は即ち共通の經費となり特別費は特別の經費となるものを指す。かの監督費營業費に於ける區別はまた此分類に外ならずとす。

經常費ト臨時費ト 經常費は普通に要する費用にして臨時費は其時に限り臨時に支出するものを云ふ。商品賣買及び經費に關する一般費用は經常費にして天災等の爲め支出する費用は臨時費なりまた事務擴張の爲め特に支出するもの如きも臨時費なりとす。

現在ノ經費ト永久ノ經費ト 營業全體の爲めに其効果を久しきに及ぼす費用例へば業務擴張費の如きは永久の經費に屬し其月其年の會計年度内に係る費用は之れ現在の經費なり。故に永久の經費は仕拂の當時損失となさずして漸次消却の方法を採用することかの家屋の如くなるべし。

其會計期間ニ關スル經費 其會計期間に關する經費は支出現在の經費なり。すべて經費は其日のものは其日に入れ其月のものは其月に組み其年のものは其年に屬せしむべし。故に數箇月永續して使用すべきものは之を買入の時損失と

なさずして前書の如く數箇月に分配して其月々の損失となさしむべし。
 營業本來ノ損失ト雜收入 商家が商品賣買に於ける損益は本來の損益なれど公債證券の賣買によりて生じたる損益は寧ろ本來の損益にあらず。故に有價證券賣買營業者は之を營業本來の損益とするも物品賣買の營業者は之を雜損益また臨時收入また雜收入にて取扱ふを可とす。

有償的ト無償的損益 有償的とは利子運賃の仕拂の如く他日營業收入より回收し得べき費用にして無償的とは天變地異等により生ずる損失の如きものを云ふ。此兩者は區別して計理するにあらざれば真正なる營業の損益を知ること能はざるや勿論なり。

損益ノ起ル原因ヲ異ニスル科目 商品と積送品また商品中にも分類して其科目を別にするものは必竟其損益の起る原因を明かにせんが爲めなり。營業損益と雜損益を區別するもまた營業費中種々再別するも之れが爲めなり。唯其分科の程度は營業會計の如何によりて定むるものとす。
 分解及び綜合ノ科目 取引は分解仕譯によりて商品と賣買損益の如く分つても可

なりまた綜合仕譯によりて單に商品の一科目を以てするも可なり。これ其營業の性質と商品の如何によりて定むべきものとす。然れども一般に商品賣買の如きは綜合仕譯法により一科目にて財産及び其増減を知るを便とす。

損益ヲ併記スル科目 損失は之を一科目とし利益もまた一科目とすること多しと雖も場合によりては同一の事柄によりて生じ又同一原因によりて起るものは之を同一科目にて整理するを便とすることあり。例へば利子の科目の下に受取りたる利金を其渡方に仕拂ひたる利金を受方に記入し差引するが如きは比較對照に便なり。

經費ノ主タル科目 會計組織は豫め會計科目を設定して經費も之を單獨に計理するかまた主たる科目に屬せしむるかを定む。例へば旅費の如き買入出張なれば商品の原價に支店監査の出張なれば監督費に組入るゝが如し。旅費の如きは性質或科目に屬すべきものにて獨單に計理すべきものにあらず尙ほ經費によりては此類に屬するもの多きが故に經費はよく其性質と用途を考へ會計の計理に遺憾なからしむべし。

第三十二節 普通ノ貸借

普通ノ貸借 普通の貸借とは豫め返済の期日利子を定め證人を入れ擔保を差出し借用證書を授けて金銭を貸借するものを云ひ商業上の掛貸借等とは大に其趣を異にす。而て其都合によりては利子なきありまた證人なきありまた擔保品なきありまた確と期日を定めざるさへあり尙ほ證書の授けなきことあり。掛貸借等は商事上の貸借なれど普通貸借は民事上の貸借より起るを本來とす然れどもまた商業上の貸借が後に變じて普通貸借となるものもあり。

借用證書 此貸借に用ふる借用證書は手形類の如く裏書によりて他へ自由に譲渡すこと能はず。故に此貸借に於ける債權債務を第三者に譲らんとせば相互に承諾の上證文の書換をなし以來の貸借は消滅し更に新規の契約となるべきものなり。

普通貸借ノ科目 借入は借入金を受附は貸附金を以て大科目とし内譯に人名別を用ふ。尤も此種貸借の多き處にては其利子の有無擔保の如何により種々の類別をなすも可なり。而て其返済期限の経過するものは受取未済（銀行にては期

限過貸付金）に移し期日過て尙ほ取立見込なきものは雜損失の類（銀行にては一先滞貸金）へ受取未済より更に据替ゆべし。

諸向貸借金 一ヶ月以内に其返済をなすものは假受渡にて計理すと雖も一ヶ月以上に渉る貸借はこの借入金又は貸附金にて計理すべし。其小口に成れる貸借金は之を總括して諸向貸金諸向借金の二科目とし内譯に人名別を用ひて計理すべし。

連帶債務 連帶債務は其債務の全額を以て已れの債務とすべきものにて此の連帶者との關係は別に計理すべし。其計理の一例左の如し。

他人の爲め連帶者となり己れは全く入金せざる時

諸向貸金 一〇〇,〇〇〇 連帶借入金 一〇〇,〇〇〇

他人と連帶し借金の半額を受取りたる時

金銭 五〇〇,〇〇〇 連帶借入金 一〇〇,〇〇〇

諸向貸金 五〇〇,〇〇〇

單に連帶者の名を貸して其眞の借主が返済せざる時

記帳及び結算 勘定科目

取立依頼ノ手形 手形の受渡を多くす處にては受取口手形は之を取引銀行に寄
托し其期日に代金を取立て我當座預金に組入れしむ。代理式裏書等によりて銀
行へ渡したる手形は以前の手形とは異なるが故に左の如き計理法を用ふるを便
とす。

取立の爲め銀行へ寄托す 假渡裏書手形 受取口手形
取立済の旨通知あり 裏書手形 假渡裏書手形
當座預金 取立預ケ手形

右はまた左の如くするも可なり。 取立預ケ手形 受取口手形
取立の爲め銀行へ寄托す 當座預金 取立預ケ手形

取立済の旨通知あり 爲替手形ニ關スル計理 爲替手形は振出人仕拂人及び受取人の三者より成る今
此三者各目の計理を左に示さん。甲は乙に對する掛借金一千圓の支拂に對し丙
宛一覽後十日拂の爲替手形を作成して乙に渡すとせば其分解は左の如し。

甲 (振出人) 乙 (仕拂人) 丙 (受取人)
假渡(乙) 假受(丙) 假渡(丙) 假受(甲)

乙は右手形を受取り之を丙に呈示して引受けしむ。

假受(丙) 丙 某 受手 假渡(丙) 甲 仕手
乙 某 假受(甲) 假渡(丙) 甲 某
期日に至り右手形は丙より乙に仕拂濟となる
金 錢 受手 仕手 金 錢

(注意) 普通右仕譯は爲替手形の振出をなしたる時甲は己の帳簿に於て乙對
丙の仕譯をなし恰も掛金を受取りて掛金を仕拂ひたる如くし乙は之れを丙
に仕拂引受をなさしめたる時乙の帳簿は受手對甲とし丙の帳簿は甲對仕手
とす。手形の呈示をなし丙に引受けしめたる時に於ける乙と丙との仕譯は
便宜之れによるも可なれと第一に手形を振出したる時甲が己れの帳簿にて
對丙と仕譯するは非なり如何となれば其手形の引受なき内に乙丙の勘定を
消滅せしむるの理由なればなり。故に若し省略の仕譯による時は振出の際
は記帳せずして丙の仕拂引受ありたる際左の如くすべし。

甲 乙 丙
 乙 某 丙 某 受 手 甲 某 甲 某 仕 手
 手形ノ不渡 手形不渡となる時の計理大要は左の如し。
 甲は乙に商品を賣りて手形を受く

甲の帳簿

乙の帳簿

受取口手形 二〇〇 商 品 二〇〇 商 品 二〇〇 仕拂口手形 二〇〇
 右手形不渡となる

未 決 算 二〇〇 受取口手形 二〇〇 仕拂口手形 二〇〇 未 決 算 二〇〇

甲は乙に手形を返す

乙 二〇〇 未 決 算 二〇〇 未 決 算 二〇〇 甲 二〇〇

右不渡の費用を乙負擔す

乙 五 金 錢 五 雜 損 夫 五 甲 五

第三十五節 交互計算掛貸借類

交互計算 交互計算とは帳簿貸借の一にして期日を定め相互の貸借を差引きて

其殘金を受渡するものなり。故に交互計算は其約束次第にて掛貸借も立替金も
 利金も時には手形にても此計算に加へて差引計算するを得べし。而て交互計算
 は一般に人名を以て口取す即ち人名勘定は交互計算のものと知るべし。

掛貸借 掛貸及び貸借はまた帳簿貸借の一なれどこれら掛貸又は掛借に關する
 計算をなすものにて立替其他は此計算に加はらざるものとす。尤も豫め交互計
 算の約なきも便宜掛金以外のものを加ふるあれどこれは寧ろ交互計算に屬すべ
 きものにて掛貸又は掛借の勘定にあらず。此科目は掛貸又は掛借又は合併した
 る掛貸借の科目を用ひ其内譯は人名別とす。而てこれらの科目を直に人名別に
 し元帳に表はす時は人名の上に掛貸又は掛借又は掛貸借の文字を加へて交互計
 算の人名勘定と區別すべし。また元帳に人名別の掛貸借科目を用ひたる際に其
 取引少き小數の掛貸借は便宜之を合併して諸向掛貸借とし内譯に人名別を用ふ
 るも可なり。

月拂勘定 商家が其得意先へ月末拂の約束にて商品を通帳にて販賣するはまた
 この掛賣勘定なり。此掛賣に於て商人は其都度得意先臺帳へ人名別に記入する

第三十五節 未決算假受渡

未決算 茲に未決算とは一時の紛失金旅費引當の前渡金の如く取引の起りたる當時は財産變化の取引なるや財産増減の取引なるやその未決なるものを云ふ。然れども未決算の性質は多くの取引に含まるゝものにて唯前出の紛失金又は旅費引當の前渡金の如き場合のみならず。廣く云へば積送品も廻送品も未決算なり然れどもこれらは別に計理するを便とするが故に茲には唯狭き意味に於ける未決算を單に未決算の科目にて整理することとせり。

假受假渡 假受とは一時の受入にして例へば一時金圓を預かりたる如くまた品物を一時預かりしたる場合の如きを云ふ故に假受は渡方に起りて受方に終る一種の借金（營業の借金）なり。假渡は之に反し一時金品の類を渡したる如き場合に於て其受渡は受方に起りて渡方に終る一種の貸金（營業の貸金）なり。假受渡もまた茲に示せる一時預かりの金品のみならず他の取引に於ても見ると雖とも寧ろ獨立して別科目とし計理するを便とするが故に他の科目にて表はる場合また多しとす。

科目ノ設定 未決算は一科目假受渡は假受及び假渡の二科目にて計理すと雖も會計の仕組によりては此三者を合併して單に未決算とし一科目にて計理するも可なり又此三者を合併して之を假受及び假渡の二科目とし計理するも可なり。然れども未決算及び假受渡とも概ね一箇月以内に決算し得べき取引に限り二ヶ月以上にあらざれば決算し難きものは適當の會計法を考ふべし。

内譯科目 未決算及び假受渡は混雜し易き勘定なるが故に其整理は注意の上にも注意し其内譯の科目は明瞭にして計理し易き分類法を用ふべし。世間にては往々未決算假受渡の記帳を厭ふて常に省略法を用ふるもの多しと雖も未決算假受渡は寧ろ簿記計算の本色なれば苟もこれらの勘定に屬するものは大小洩さず有りの儘に記帳整理すべし。

第三十六節 資本金

資本主ト資本金 資本主とは營業に放資せる資本家にして資本金とは其資本主が其營業に委ねたる資本高なり。此二者は混同し易きも區別するを要す如何となれば資本金は資本金のみなれど資本主には此資本金の外營業の純損益金等の

關係あればなり。然れども箇人の營業は一人にて營業主と資本家を兼ね其營業純損益金は直に其資本金を増減せしむる場合多きが故に殆んど資本主と資本金とは同様の如きも尙ほ資本主が私用の爲め營業に屬する物品金錢を使用することあるが故に此兩者の區別は判然せしむべし

科目ノ設定 資本金は之を資本金と稱すれど往々出資物とのものと考ふる人多きが故に寧ろ單に資本と稱する科目を用ふべし。二人以上の資本主ある時は人名を冠したる資本の科目を用ふべし。資本主の私用勘定は之を資本勘定と別し他に科目を設定して計理すべし。支店に資本を別つときは支店の科目を設け本店は支店對金錢とし支店は金錢對本店として計理すべし。

第三十七節 損益金

損益金 損益金を以て直に資本主に屬する勘定の如く考ふる人多しと雖も元來營業の損益金は資本家の利子營業主の利潤等に分配すべきものなり故に其全體を以て直に資本の利子の如く考ふるは誤れり。唯箇人の營業は一人にて資本家と營業主とを兼ねる者多きが故に營業の損益は一人の手に歸するを以て恰も資

本主の取前の如く考へ尙ほ一般に資本主は其純損益を以て資本を増減せしむるが故に營業純利益を以て直に資本主に屬する勘定の如く考へしむ。此の區別は株主會社等に於ける營業利益と其處分法を考ふる時は容易に會得すべしこの點に就ては附録會社會計の大意を見るべし。

第三編 帳簿組織

第七章 帳簿編成

第三十八節 勘定の形式

勘定ノ形式 勘定は即ち局部の計理にして局部の計算は其種類により受渡共數多きありまた受方の數多くして渡方記入少なきありまた渡方記入多くして受方の少なきあり。また勘定は其總括の計算あり内譯の計算ありまた二箇の勘定を便宜一箇所にて計算することもあり。依て勘定は其使用の目的により種々の形式となる。

